Guitar magazine Video Workshop

解説書

ロック・ギタリストのための

スケールの覚え方・使い方事典

インストラクター——堀沢俊樹

Vol.2

〈ドリアン、ミクソリディアン、リディアン、他〉

Rittor Music

ロック・ギタリストのための
スケールの覚え方・使い方事典

Vol.2
〈ドリアン、ミクソリディアン、リディアン、他〉

C O N T E N T S

※以下はビデオのコンテンツです。解説書には★印の付いた項目に関する譜例または図が掲載されています。

●オープニング・デモンストレーション

F♯ドリアン・モード／Aミクソリディアン・モード／Eリディアン・モード

●はじめに　チャーチ・モードについて★

●PART 1　ドリアン・スケール

★1-1:Aドリアン・スケール
★1-2:ドリアン・スケールのフィンガリング・パターン
★1-3:マイナー・ペンタトニック・スケールを骨格としたドリアン・スケールの省略パターン
★1-4:Aドリアン・スケールによるデモ演奏
★1-5:ドリアン・スケール＋♭5
★1-6:Aドリアン・スケール＋♭5によるデモ演奏

●PART 2　ミクソリディアン・スケール

★2-1:Cミクソリディアン・スケール
★2-2:ミクソリディアン・スケールのフィンガリング・パターン
2-3:セブンス・コードにミクソリディアン・スケールを絡ませる
★2-4:ブルース系のフレーズをミクソリディアン・スケールに変換する
★2-5:ブルーノート・ペンタトニック・スケールを変化させたミクソリディアン・スケールの省略パターン
★2-6:Cミクソリディアン・スケールによるデモ演奏

●PART 3　リディアン・スケール

★3-1:Cリディアン・スケール
★3-2:リディアン・スケールのフィンガリング・パターン
★3-3:Cリディアン（Aドリアン）・スケールによるデモ演奏
★3-4:Cリディアン（Dミクソリディアン）・スケールによるデモ演奏

●PART 4　ホールトーン・スケール

★4-1:Cホールトーン・スケール
★4-2:ホールトーン・スケールのフィンガリング・パターン
4-3:ホールトーン・スケールの規則性を利用したメカニカルなフレージング
★4-4:CミクソリディアンスケールとCホールトーン・スケールによるデモ演奏

●PART 5　コンビネーション・オブ・ディミニッシュ・スケール

★5-1:Cコンビネーション・オブ・ディミニッシュ・スケール
★5-2:コンビネーション・オブ・ディミニッシュ・スケールのフィンガリング・パターン
5-3:コンビネーション・オブ・ディミニッシュ・スケールの規則性を利用したメカニカルなフレージング
★5-4:CミクソリディアンスケールとCコンビネーション・オブ・ディミニッシュ・スケールによるデモ演奏

●PART 6　メロディック・マイナー・スケール
リディアン♭7・スケール　オルタード・スケール

★6-1:Aメロディック・マイナー・スケール
★6-2:メロディック・マイナー・スケールのフィンガリング・パターン
★6-3:Eメロディック・マイナー・スケールによるデモ演奏
★6-4:メロディック・マイナー・スケールとリディアン♭7・スケールの関係
★6-5:Eリディアン♭7・スケールによるデモ演奏
★6-6:メロディック・マイナー・スケールとオルタード・スケールの関係
★6-7:Eオルタード・スケールによるデモ演奏（その1）
★6-8:Eオルタード・スケールによるデモ演奏（その2）
★6-9:F♯ドリアン・スケール＋♭5＋7によるデモ演奏

●おまけ　スケールに慣れるコツ

数字によるスケール表記を指板図に置き換える方法
ギター1本でスケールの雰囲気を掴む
ホールド・ディレイでスケールの雰囲気を掴む
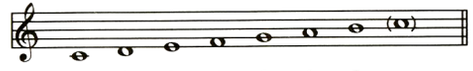
●エンディング・デモンストレーション

「AUNT SUSAN」 by Toshiki Horisawa

参考資料

『ロック・ギタリストのためのスケールの覚え方・使い方事典Vol.1』
で紹介したスケール

C メジャー・スケール
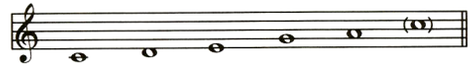


A ナチュラル・マイナー・スケール
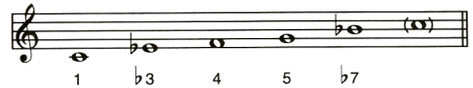


A マイナー・ペンタトニック・スケール
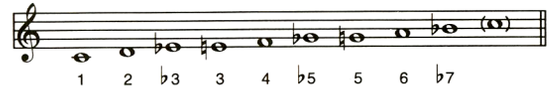


C メジャー・ペンタトニック・スケール



C ブルーノート・ペンタトニック・スケール
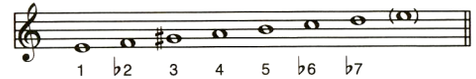


C ブルース・スケール



A ハーモニック・マイナー・スケール
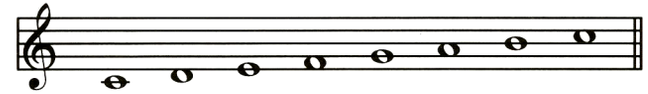


E ハーモニック・マイナーP5⬇
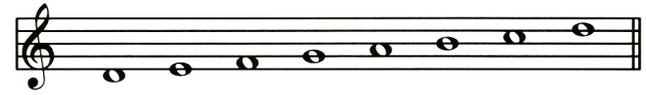


はじめに

チャーチ・モードについて
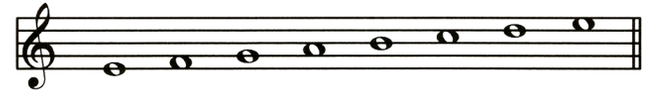
C アイオニアン
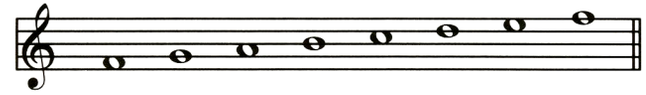


D ドリアン
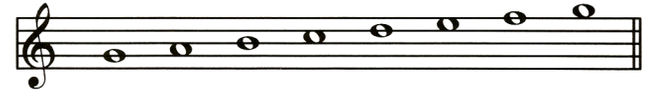


E フリジアン
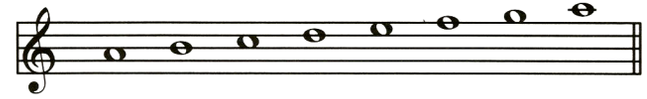


F リディアン
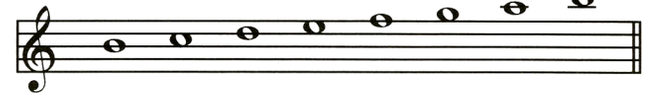


G ミクソリディアン



A エオリアン



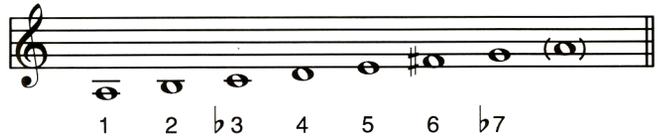
B ロクリアン



P A R T　1

ドリアン・スケール

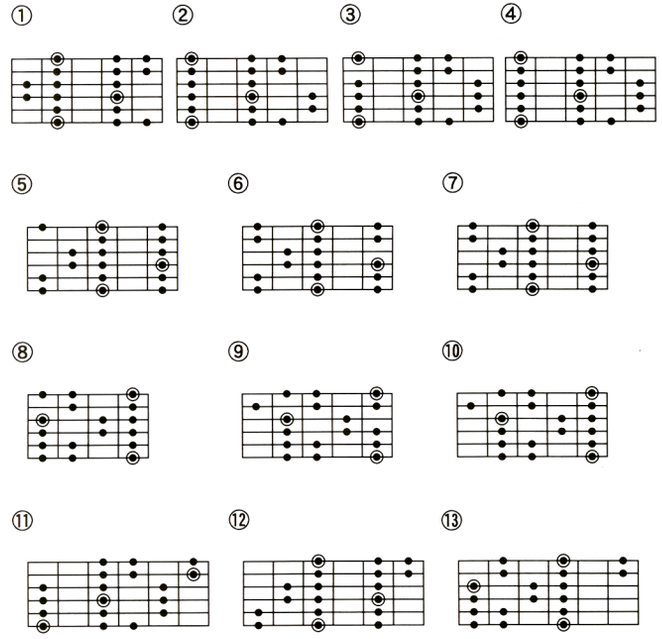
1-1：Aドリアン・スケール



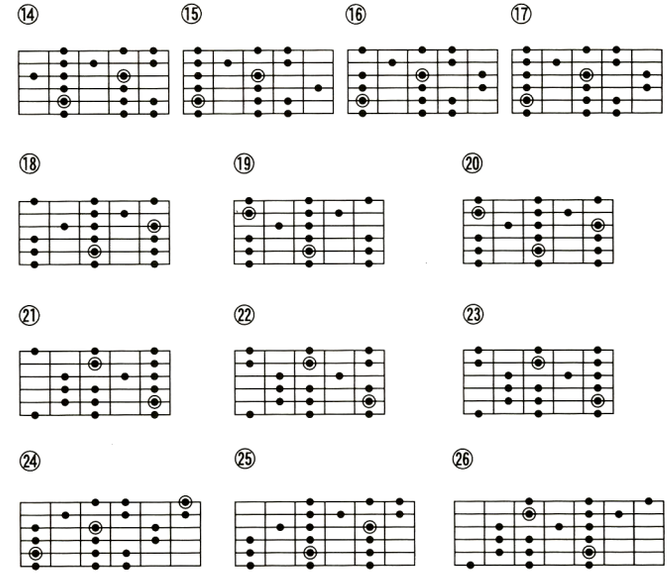
1-2：ドリアン・スケールのフィンガリング・パターン

ビデオではAをルートに、①→⑪→⑭の順で演奏しています。

●6弦ルートのダイアグラム



●5弦ルートのダイアグラム



●6弦ルートのダイアグラム

①：人差指ルートのポジション
②：4弦の6thを5弦に，3弦の2ndを4弦に移動
③：2弦の5thを3弦に移動
④：②+③

⑤：中指ルートのポジション
⑥：3弦の4thを2弦に移動
⑦：⑤+⑥

⑧：小指ルートのポジション
⑨：3弦の♭3rdを2弦に移動
⑩：⑧+⑨

⑪：人差指ルートの各弦3音パターン
⑫：中指ルートの各弦3音パターン
⑬：小指ルートの各弦3音パターン

●5弦ルートのダイアグラム

⑭：人差指ルートのポジション
⑮：3弦の6thを4弦に移動
⑯：2弦の2ndを3弦に移動
⑰：⑮+⑯

⑱：中指ルートのポジション
⑲：3弦のルートを2弦に移動
⑳：⑱+⑲

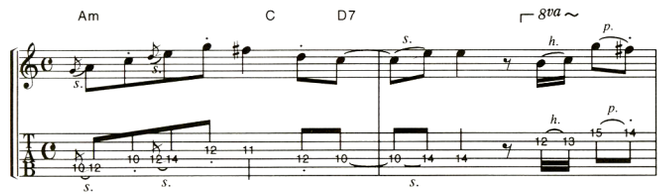
㉑：小指ルートのポジション
㉒：3弦の♭7thを2弦に移動
㉓：㉑+㉒

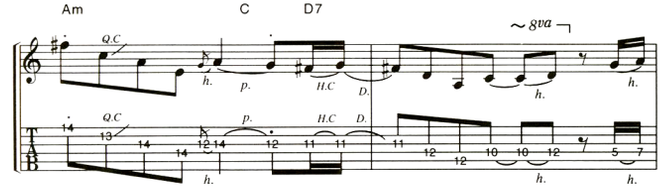
㉔：人差指ルートの各弦3音パターン
㉕：中指ルートの各弦3音パターン
㉖：小指ルートの各弦3音パターン

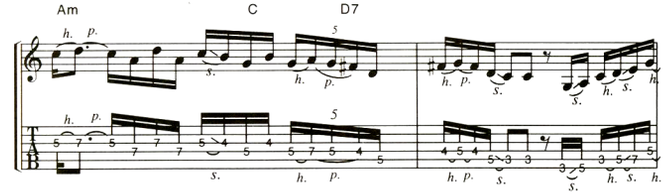
1-3：マイナー・ペンタトニック・スケールを骨格とした　ドリアン・スケールの省略パターン
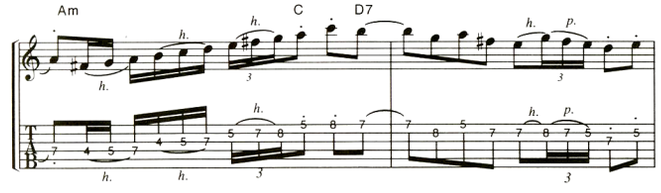


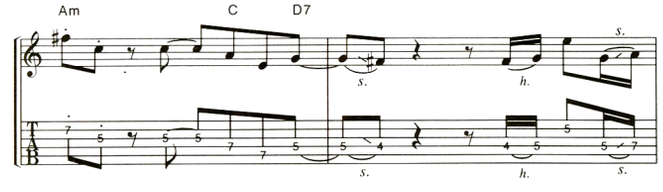
1-4：Aドリアン・スケールによるデモ演奏

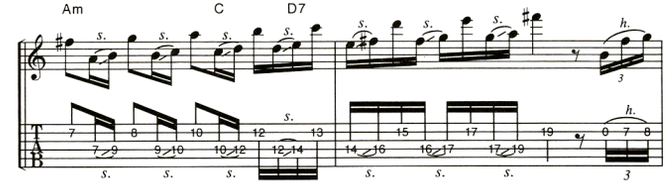


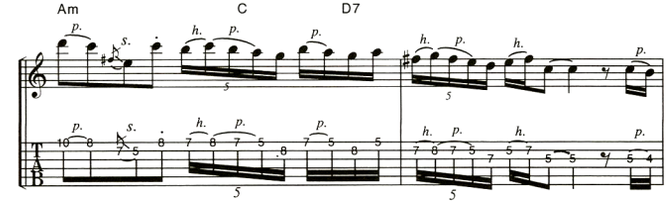


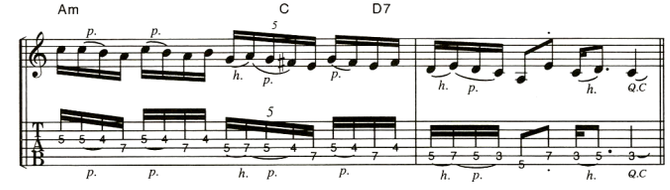










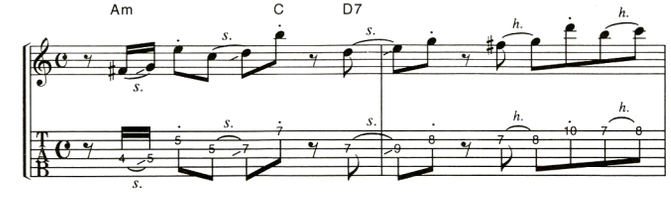


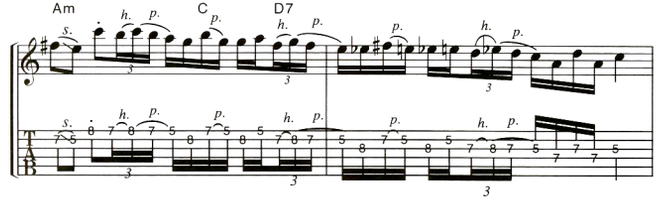
1-5：ドリアン・スケール+♭5
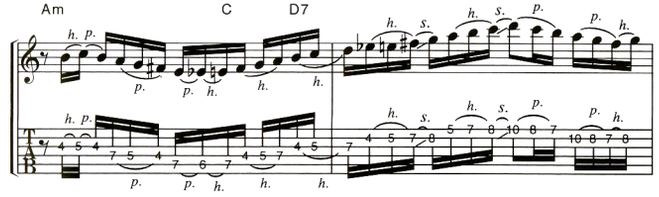
ドリアン・スケール+♭5のダイアグラム

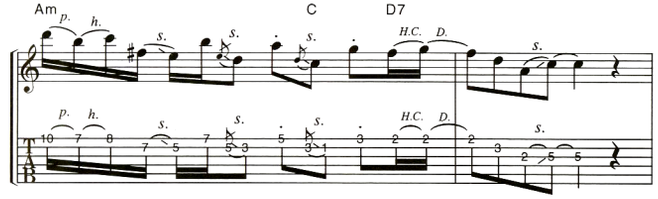


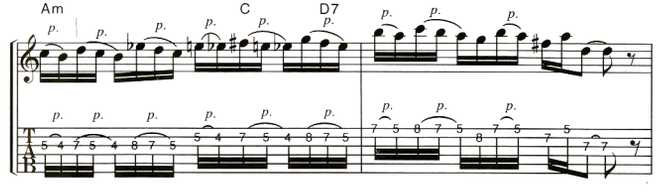
1-6：Aドリアン・スケール+♭5によるデモ演奏

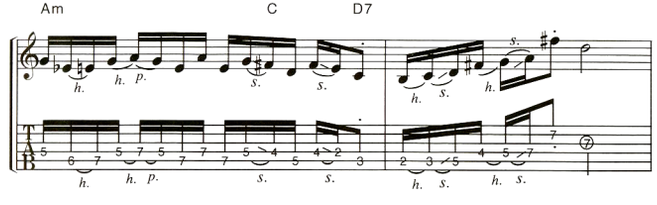


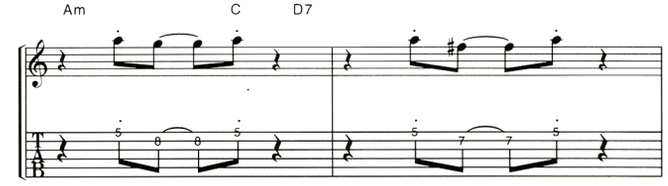

Am
C
D7

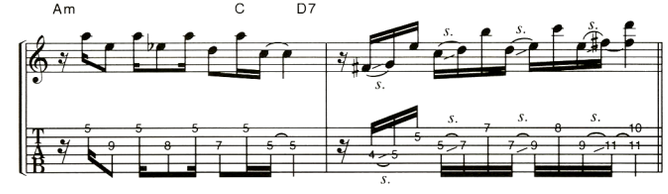

Am
C
D7


Am
C
D7


Am
C
D7


Am
C
D7

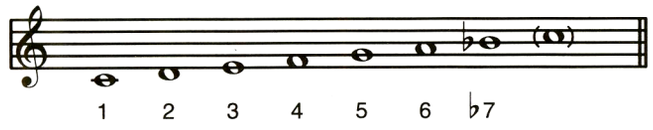

Am
C
D7


Am
C
D7

P A R T 2

ミクソリディアン・スケール

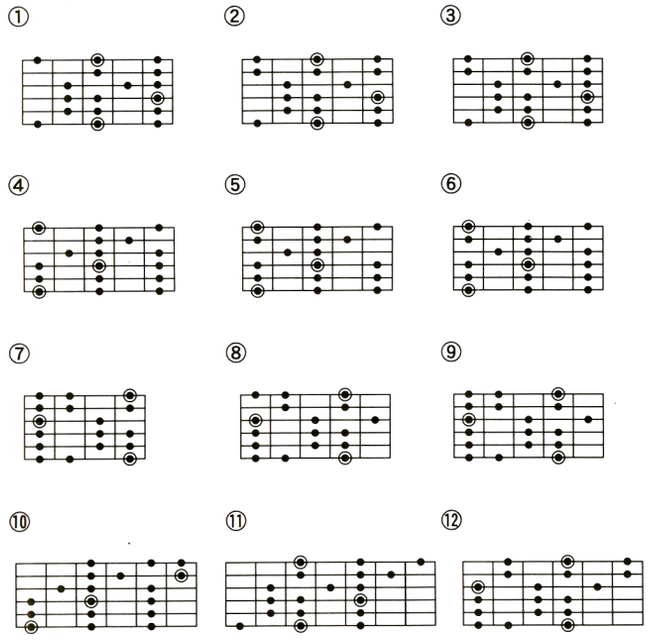
2-1：Cミクソリディアン・スケール



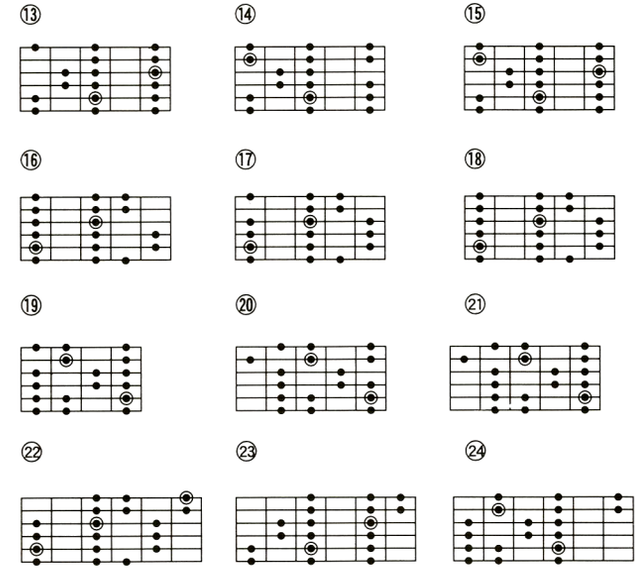
2-2：ミクソリディアン・スケールのフィンガリング・パターン

ビデオではCをルートに、⑪→⑩→⑲の順で演奏しています。

●6弦ルートのダイアグラム



●5弦ルートのダイアグラム



●6弦ルートのダイアグラム

①：中指ルートのポジション
②：３弦の4thを2弦に移動
③：①+②

④：人差指ルートのポジション
⑤：3弦の5thを2弦に移動
⑥：④+⑤

⑦：小指ルートのポジション
⑧：3弦の3rdを2弦に移動
⑨：⑦+⑧

⑩：人差指ルートの各弦3音パターン
⑪：中指ルートの各弦3音パターン
⑫：小指ルートの各弦3音パターン

●5弦ルートのダイアグラム

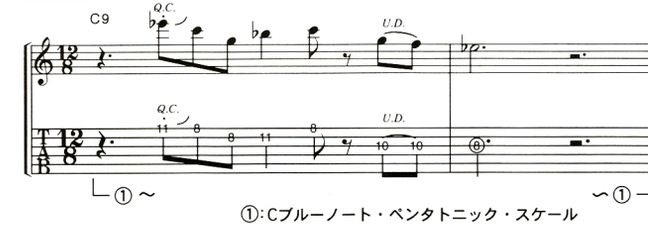
⑬：中指ルートのポジション
⑭：3弦のルートを2弦に移動
⑮：⑬+⑭

⑯：人差指ルートのポジション
⑰：3弦の2ndを2弦に移動
⑱：⑯+⑰

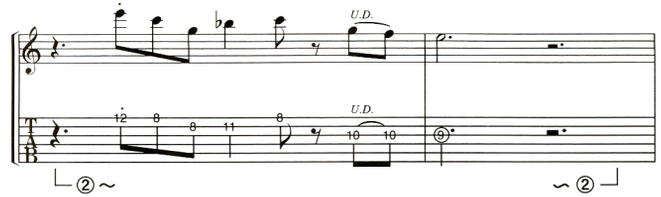
⑲：小指ルートのポジション
⑳：3弦の♭7thを2弦に移動
㉑：⑲+⑳

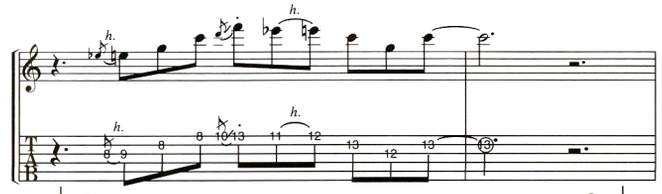
㉒：人差指ルートの各弦3音パターン
㉓：中指ルートの各弦3音パターン
㉔：小指ルートの各弦3音パターン

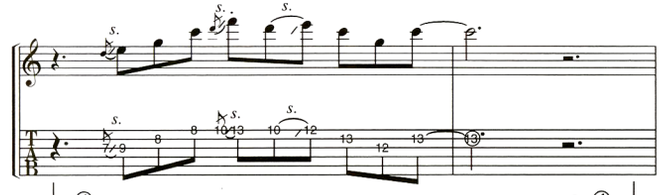
2-4：ブルース系のフレーズを ミクソリディアン・スケールに変換する

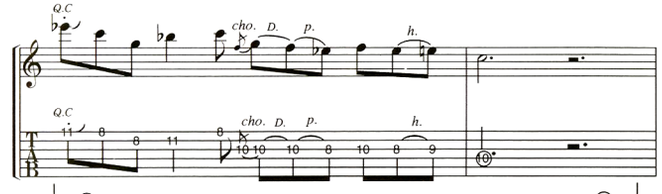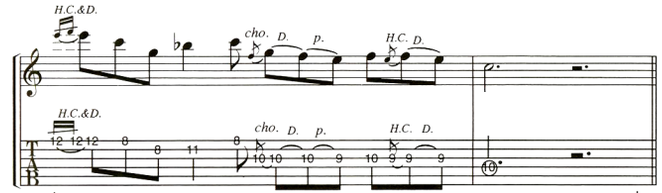


①：Cブルーノート・ペンタトニック・スケール





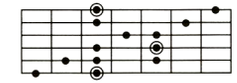




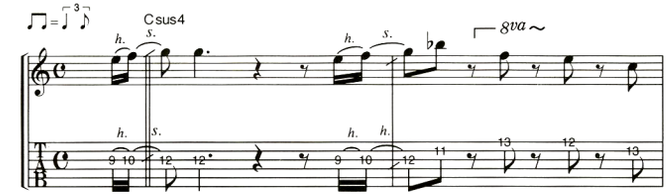


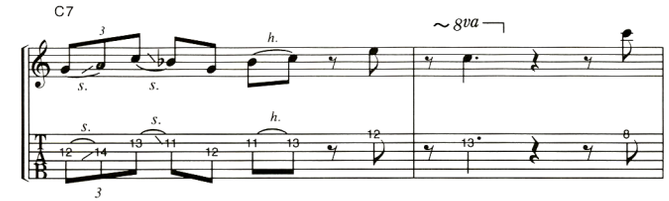
②:①の ♭3を3に変換
③:Cブルーノート・ペンタトニック+3
④:③の ♭3を2に変換
⑤:Cブルーノート・ペンタトニック+3
⑥:⑤の ♭3を3から4へのHC&Dに変換

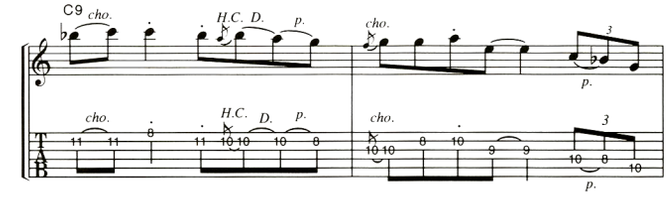
2-5:ブルーノート・ペンタトニック・スケールを変化させた ミクソリディアン・スケールの省略パターン

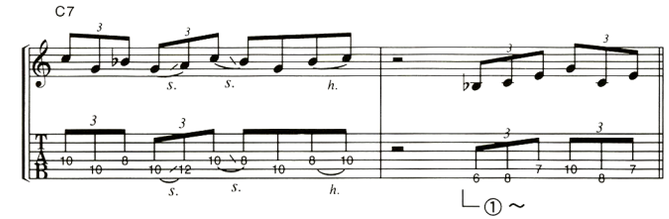


2-6 : Cミクソリディアン・スケールによるデモ演奏
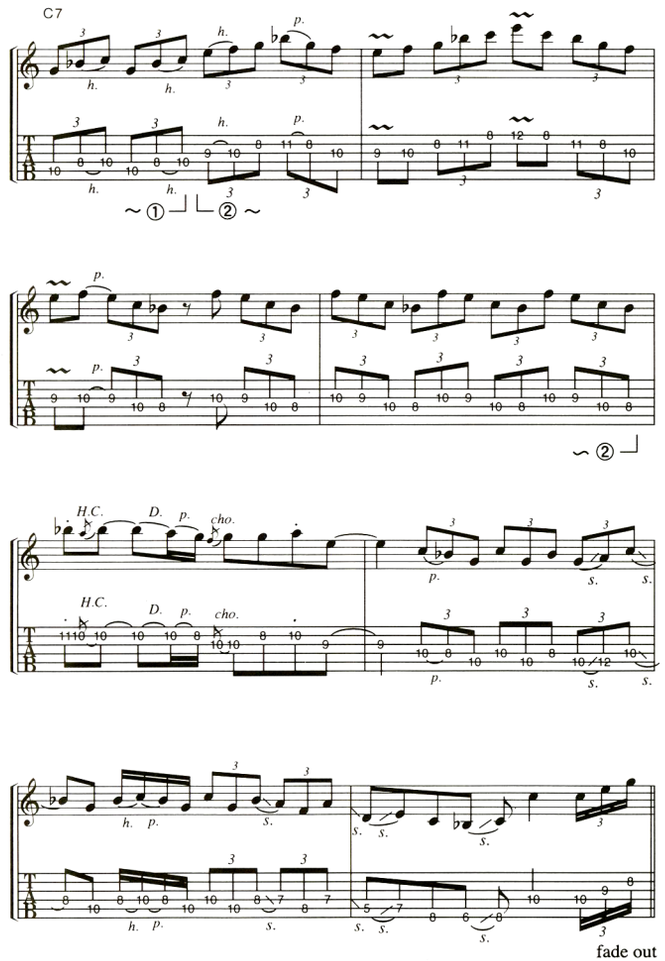








①:C7のアルペジオ
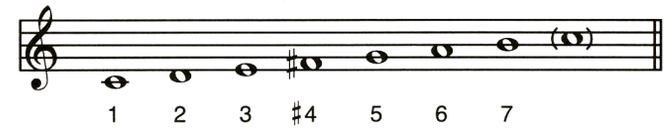


②:C7のアルペジオ+4

P A R T 3

リディアン・スケール

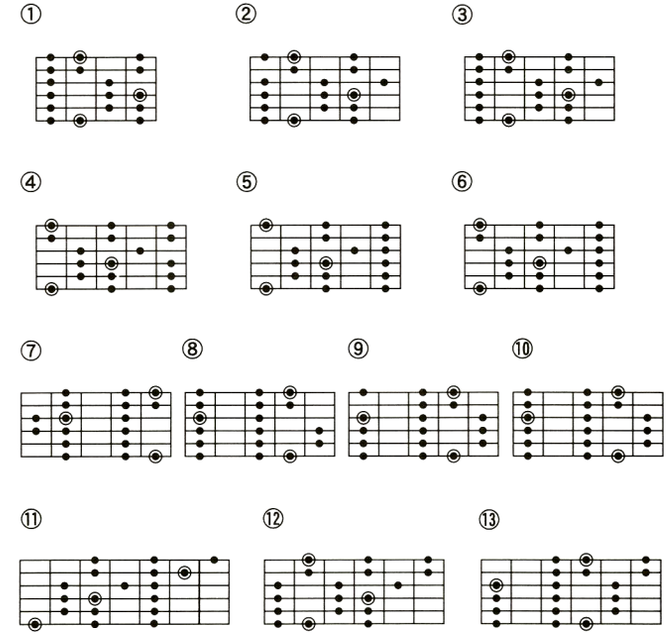
3-1：Cリディアン・スケール



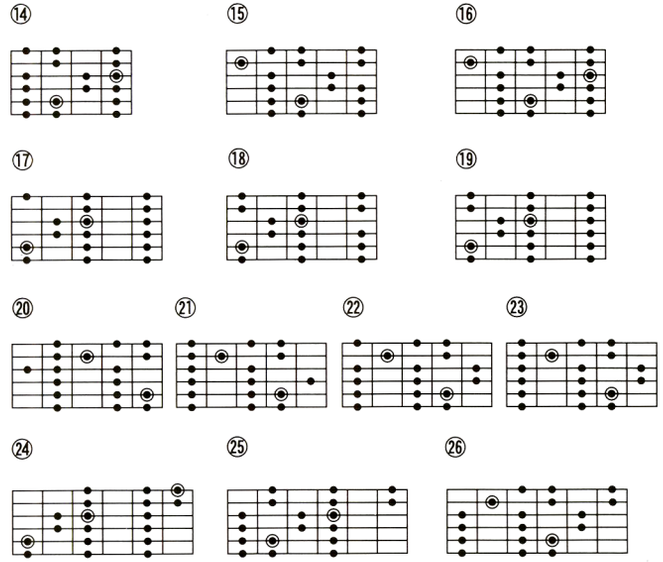
3-1：リディアン・スケールのフィンガリング・パターン

ビデオではCをルートに、①→⑪→⑭の順で演奏しています。

●6弦ルートのダイアグラム



●5弦ルートのダイアグラム



●6弦ルートのダイアグラム

①：中指ルートのポジション
②：2弦の♯4thを3弦に移動
③：①+②

④：人差指ルートのポジション
⑤：2弦の5thを3弦に移動
⑥：④+⑤

⑦：小指ルートのポジション
⑧：3弦の♯4thを5弦に，3弦の7thを4弦に移動
⑨：2弦の3rdを3弦に移動
⑩：⑧+⑨

⑪：人差指ルートの各弦3音パターン
⑫：中指ルートの各弦3音パターン
⑬：小指ルートの各弦3音パターン

●5弦ルートのダイアグラム
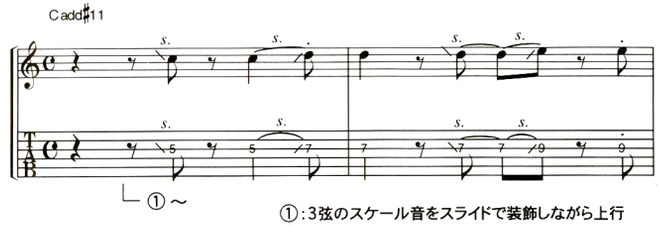
⑭：中指ルートのポジション
⑮：3弦のルートを2弦に移動
⑯：⑭+⑮

⑰：人差指ルートのポジション
⑱：3弦の2ndを2弦に移動
⑲：⑰+⑱
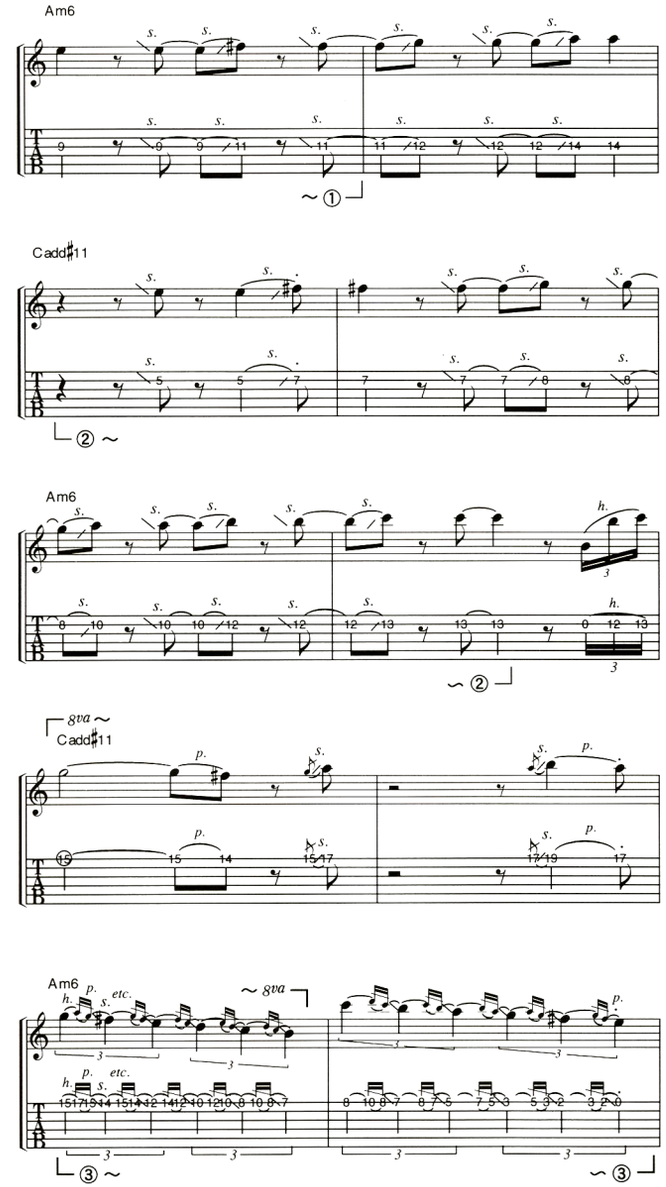
⑳：小指ルートのポジション
㉑：3弦の♯4thを4弦に移動
㉒：2弦の7thを3弦に移動
㉓：㉑+㉒

㉔：人差指ルートの各弦3音パターン
㉕：中指ルートの各弦3音パターン
㉖：小指ルートの各弦3音パターン

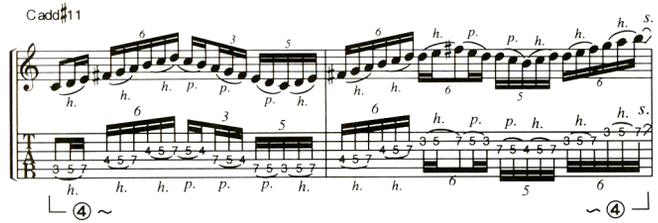
3-3：Cリディアン（Aドリアン）・スケールによるデモ演奏

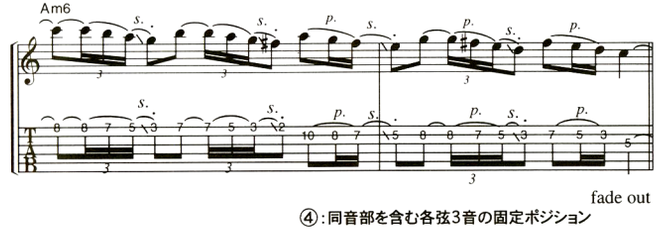


①：3弦のスケール音をスライドで装飾しながら上行



②：2弦のスケール音をスライドで装飾しながら上行
③：1弦のスケール音をハンマリング，プリング，スライドで装飾しながら下行

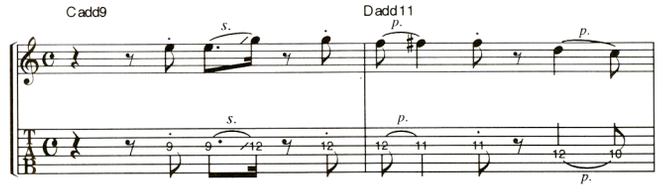


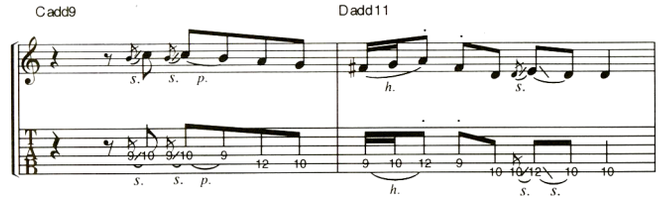


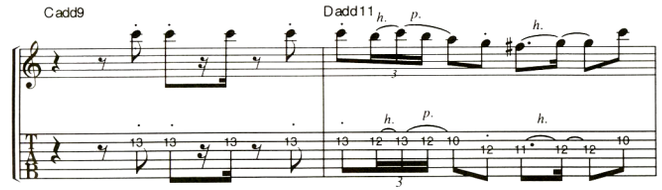
fade out
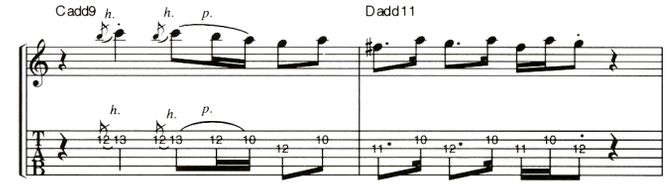
④：同音部を含む各弦3音の固定ポジション

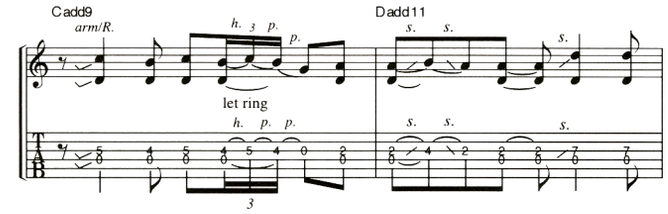
3-4：Cリディアン(Dミクソリディアン)・スケールによるデモ演奏

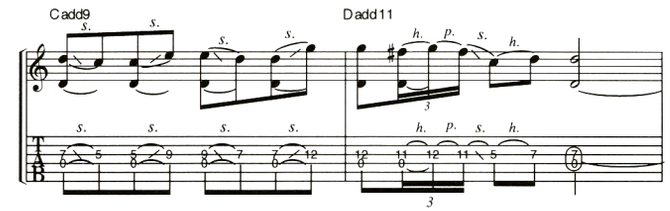


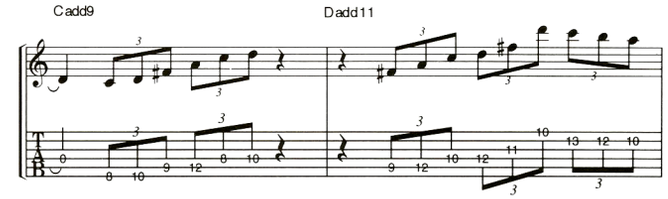


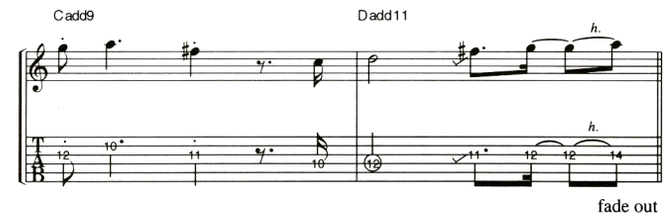










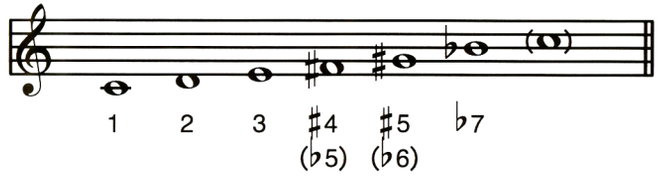


fade out

P A R T 4

ホールトーン・スケール

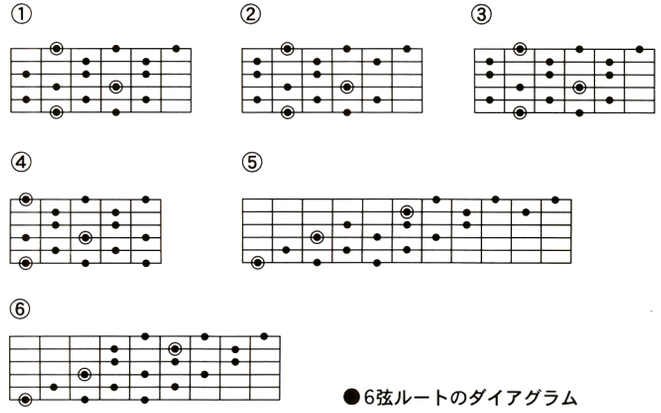
4-1 : Cホールトーン・スケール



4-2 : ホールトーン・スケールのフィンガリング・パターン

ビデオではCをルートに、①→④→⑤の順で演奏しています。

●6弦ルートのダイアグラム



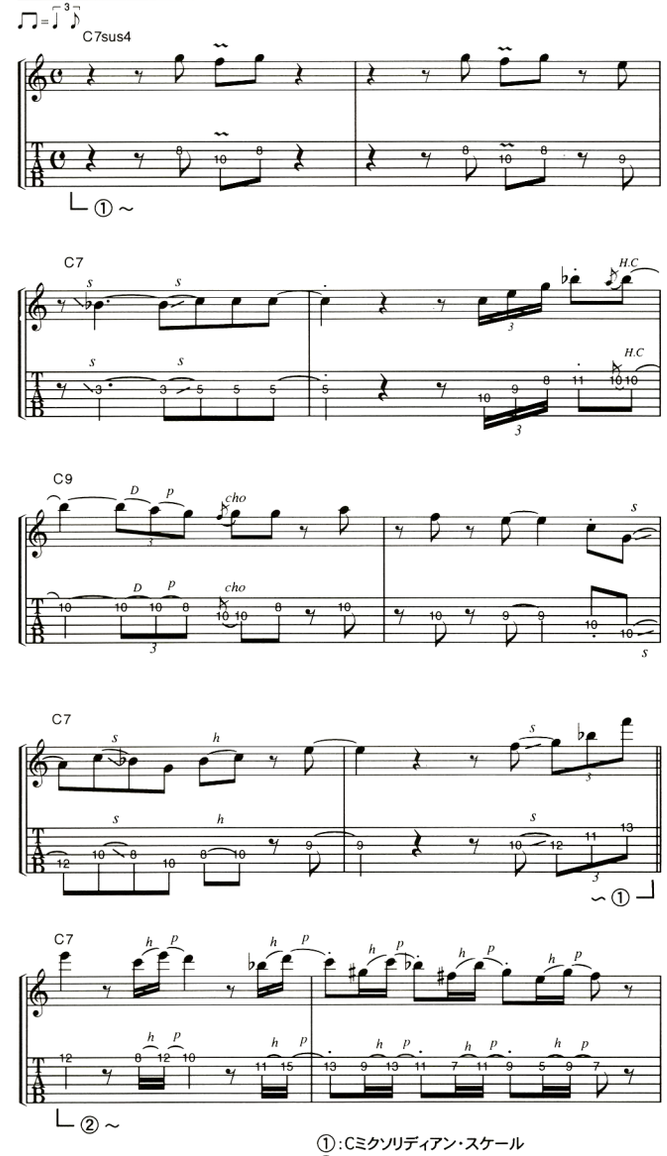
●6弦ルートのダイアグラム

①：中指ルートのポジション
②：3弦の ♯4(♭5)thを2弦に移動
③：①+②

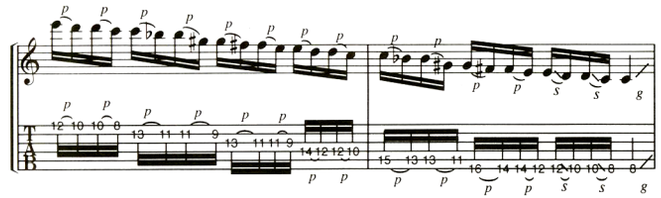
---

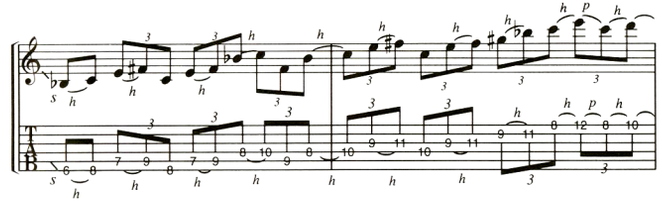
④：人差指ルートのポジション
⑤：各弦3音のパターン
⑥：同音部を含む各弦3音のパターン
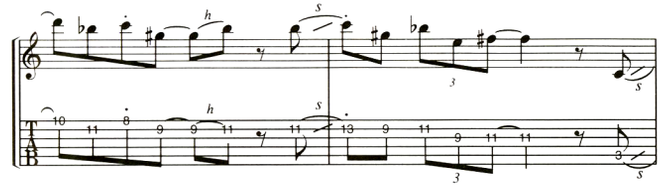
4-4 : Cミクソリディアン・スケールと Cホールトーン・スケールによるデモ演奏

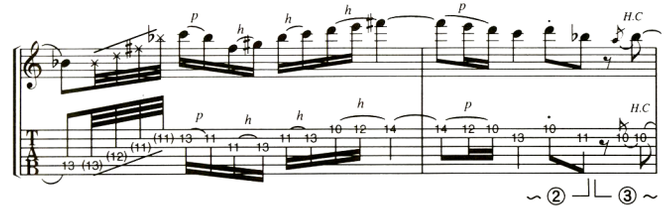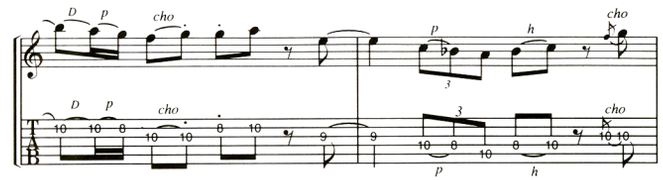


①：Cミクソリディアン・スケール
②：Cホールトーン・スケール



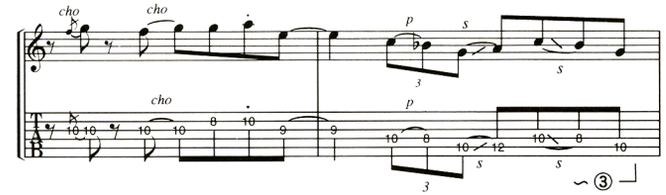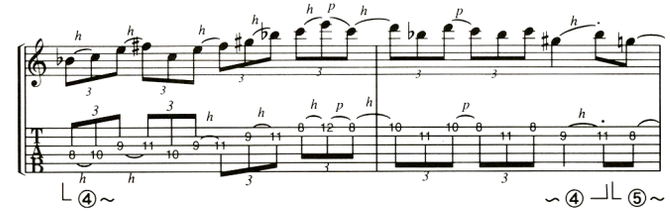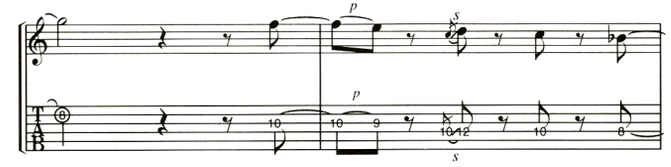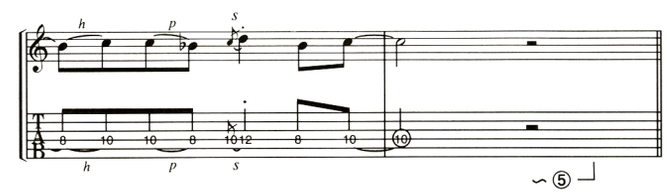








③：Cミクソリディアン・スケール
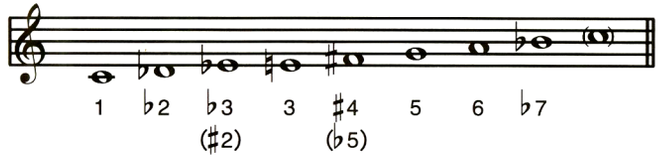








④：Cホールトーン・スケール
⑤：Cミクソリディアン・スケール

P A R T 5

コンビネーション・オブ・ディミニッシュ・スケール

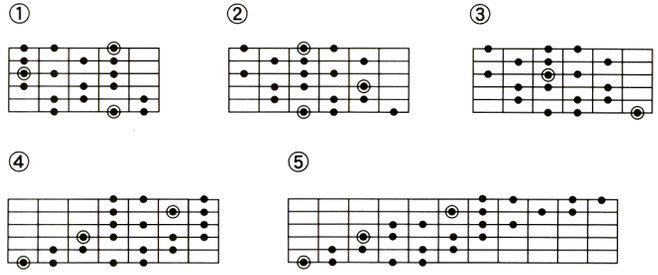
5-1 : Cコンビネーション・オブ・ディミニッシュ・スケール



5-2 : コンビネーション・オブ・ディミニッシュ・スケールのフィンガリング・パターン

ビデオではCをルートに、①→②→④の順で演奏しています。

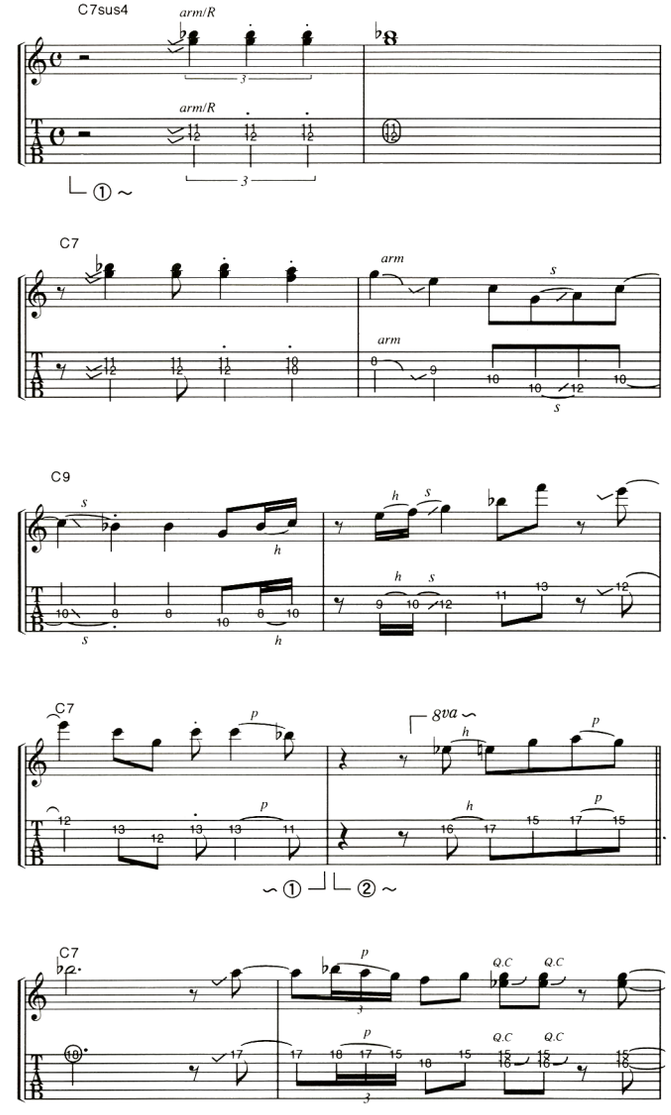
●6弦ルートのダイアグラム
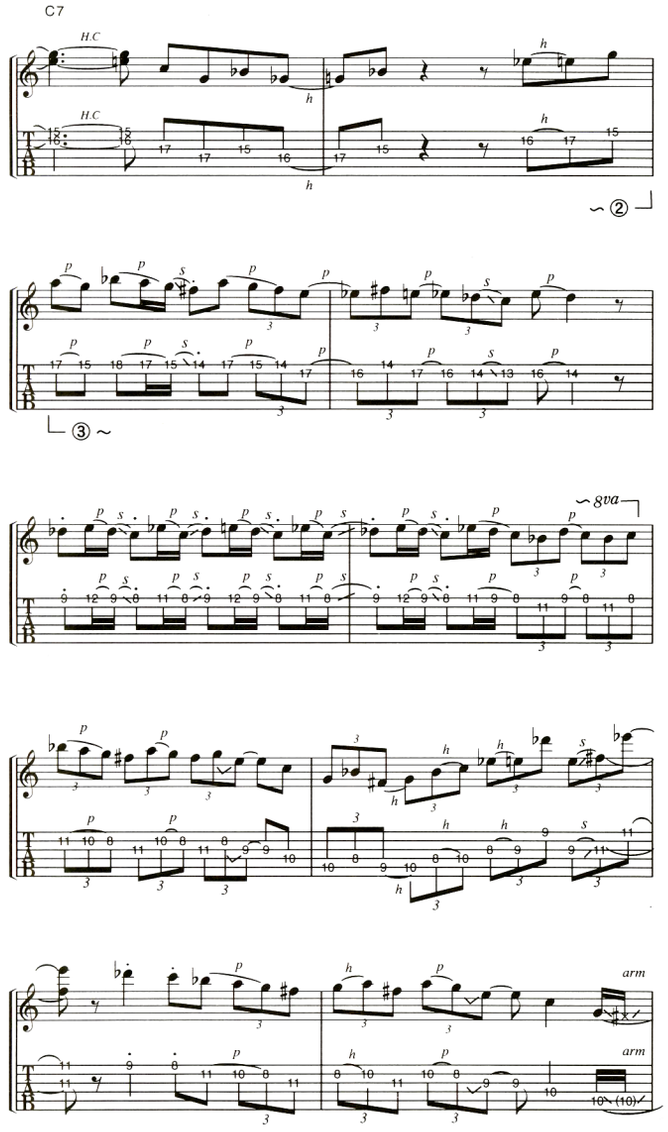


●6弦ルートのダイアグラム

①：薬指ルートのポジション
②：人差指ルートのポジション
③：小指ルートのポジション
④：各弦4音+各弦3音のパターン
⑤：各弦4音のパターン
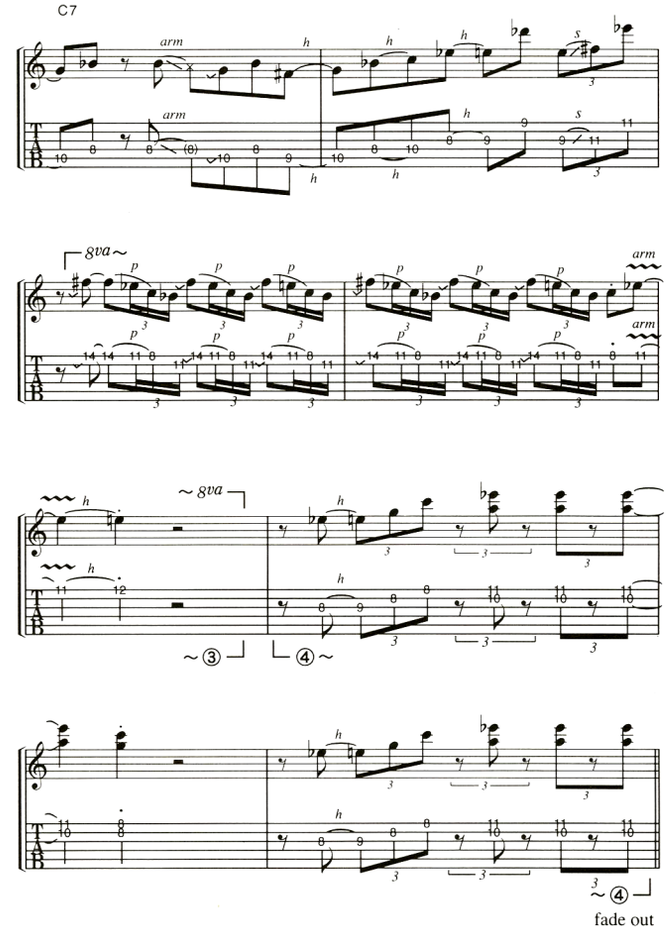
5-4 : Cミクソリディアン・スケールとCコンビネーション・オブ・ディミニッシュ・スケールによるデモ演奏



①：Cミクソリディアン・スケール
②：Cブルース・スケール



③：Cコンビネーション・オブ・ディミニッシュ・スケール

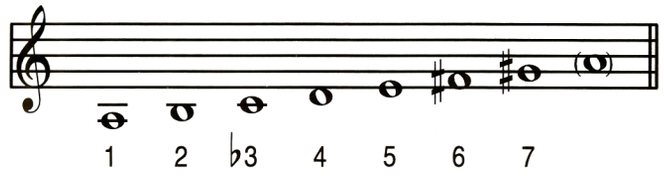


④：ブルース・スケールとコンディミの共通音

P A R T 6

メロディック・マイナー・スケール
リディアンb7・スケール
オルタード・スケール

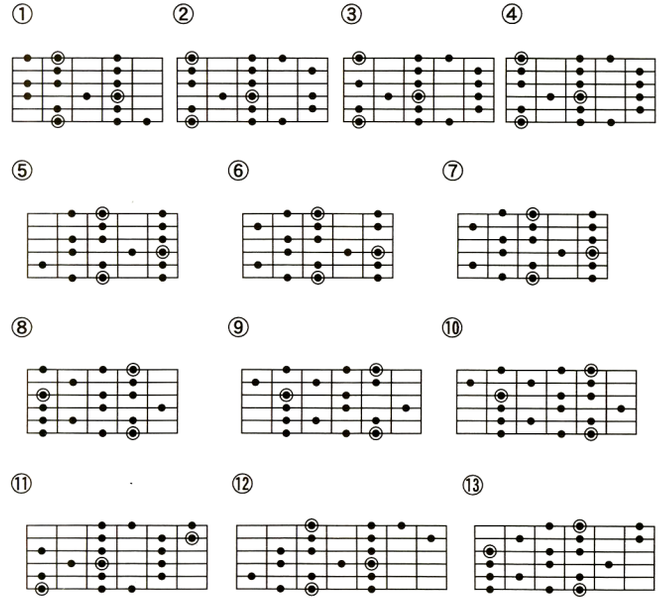
6-1 : Aメロディック・マイナー・スケール



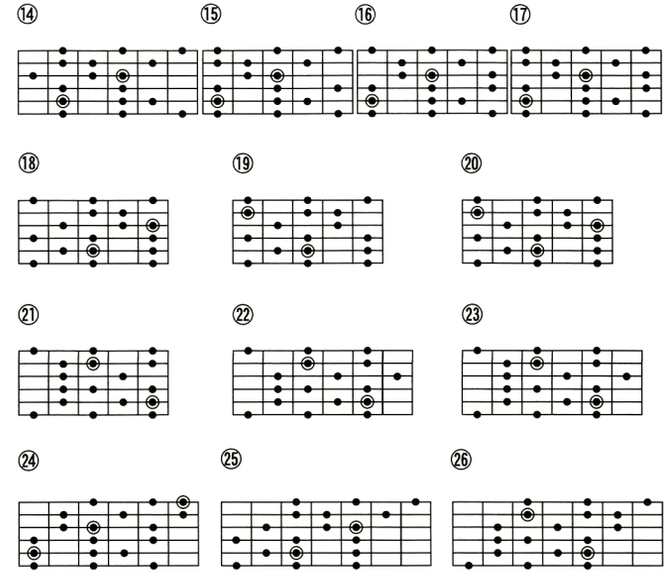
6-2 : メロディック・マイナー・スケールの フィンガリング・パターン

ビデオではAをルートに、①→⑪→⑮の順で演奏しています。

●6弦ルートのダイアグラム



●5弦ルートのダイアグラム



●6弦ルートのダイアグラム

①：人差指ルートのポジション
②：4弦の6thを5弦に，3弦の2ndを4弦に，1弦の7thを2弦に移動
③：2弦の5thを3弦に移動
④：②+③

⑤：中指ルートのポジション
⑥：3弦の4thを2弦に移動
⑦：⑤+⑥

⑧：小指ルートのポジション
⑨：3弦の♭3rdを2弦に移動
⑩：⑧+⑨

⑪：人差指ルートの各弦3音パターン
⑫：中指ルートの各弦3音パターン
⑬：小指ルートの各弦3音パターン

●5弦ルートのダイアグラム

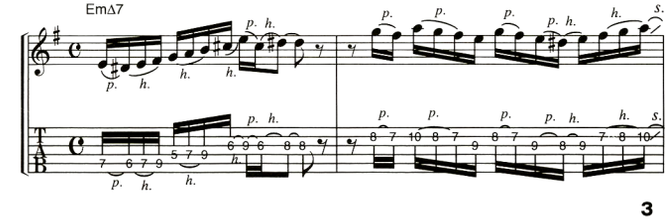
⑭：人差指ルートのポジション
⑮：3弦の6thを4弦に移動
⑯：2弦の2ndを3弦に移動
⑰：⑮+⑯
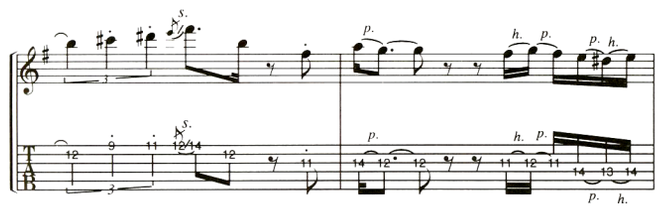
⑱：中指ルートのポジション
⑲：3弦のルートを2弦に移動
⑳：⑱+⑲

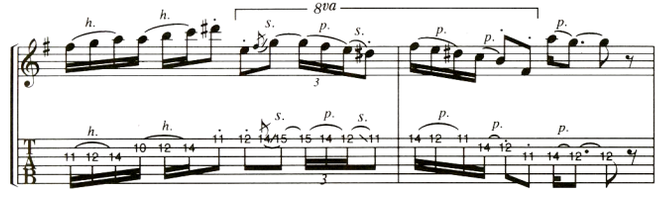
㉑：小指ルートのポジション
㉒：3弦の7thを2弦に移動
㉓：㉑+㉒

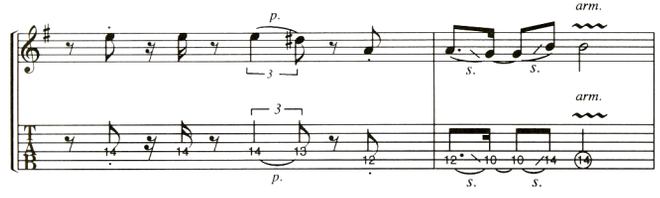
㉔：人差指ルートの各弦3音パターン
㉕：中指ルートの各弦3音パターン
㉖：小指ルートの各弦3音パターン
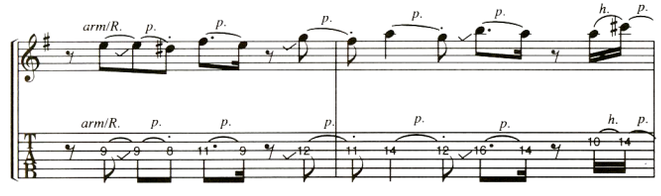
6-3 : Eメロディック・マイナー・スケールによるデモ演奏

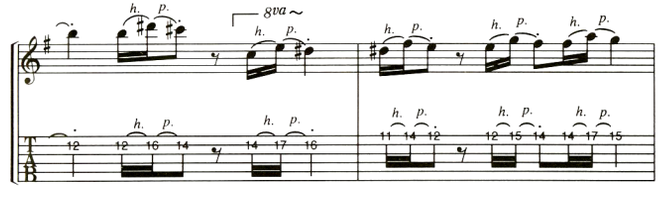


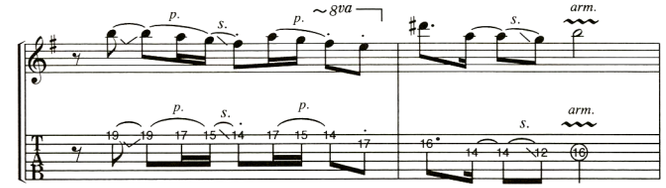


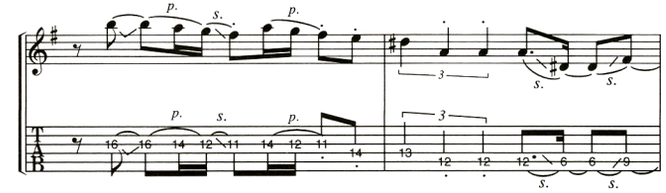


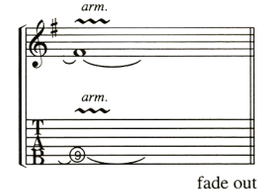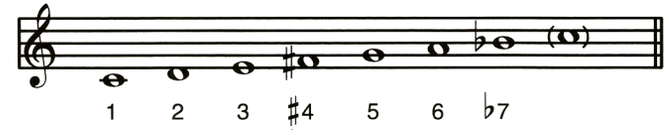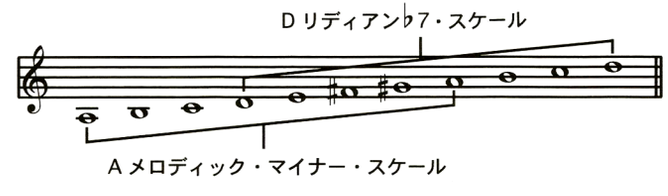












fade out

6-4：メロディック・マイナー・スケールと リディアン♭7・スケールの関係
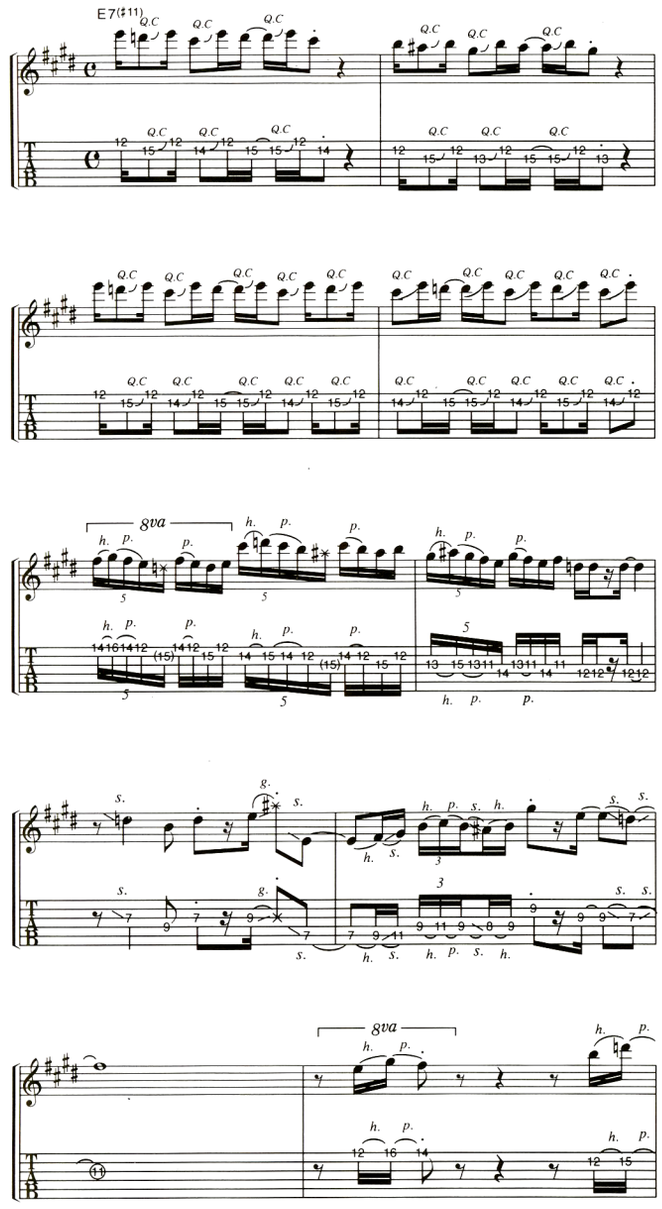
C リディアン♭7・スケール

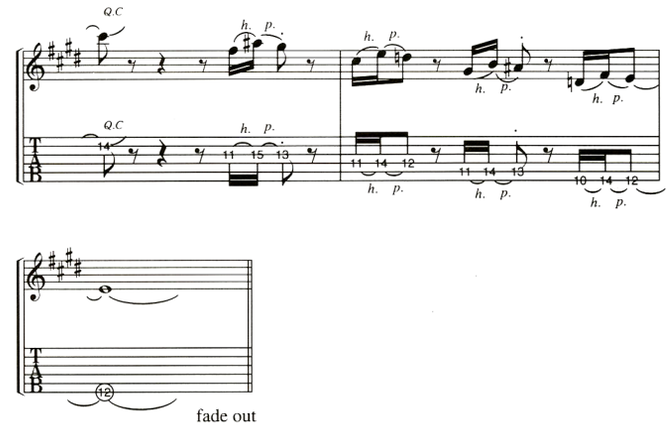


1 2 3 ♯4 5 6 ♭7

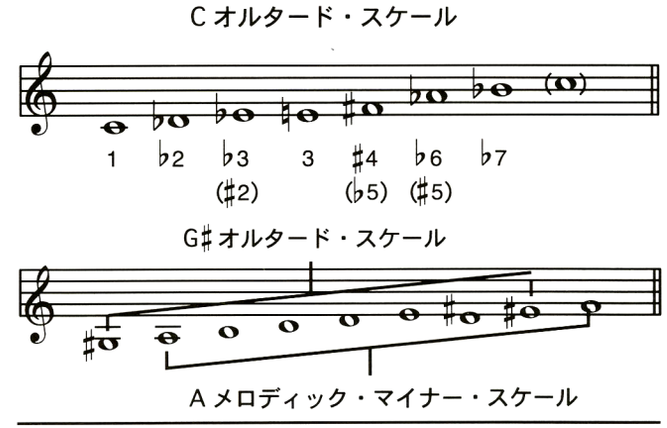


6-5：Eリディアン♭7・スケールによるデモ演奏

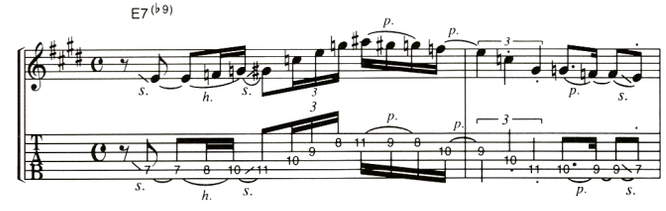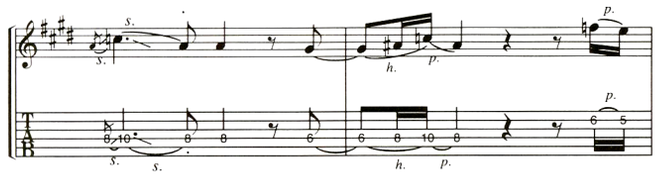




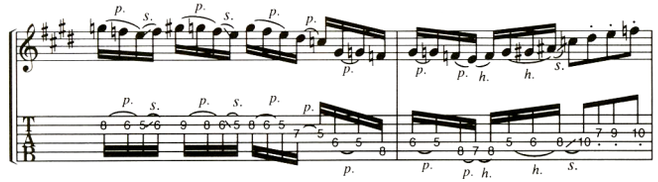
6-6：メロディック・マイナー・スケールと オルタード・スケールの関係
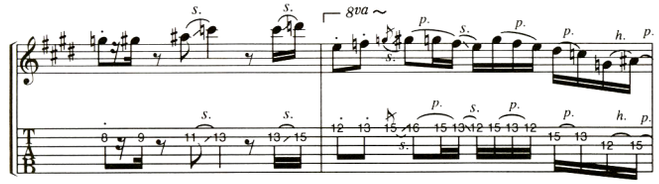


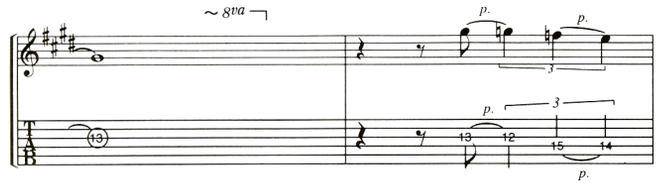
6-7：Eオルタード・スケールによるデモ演奏（その1）

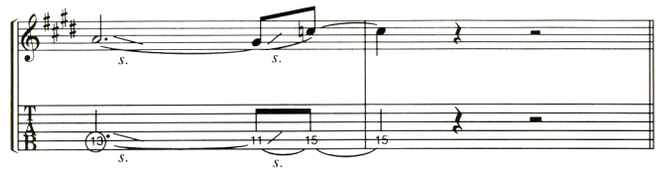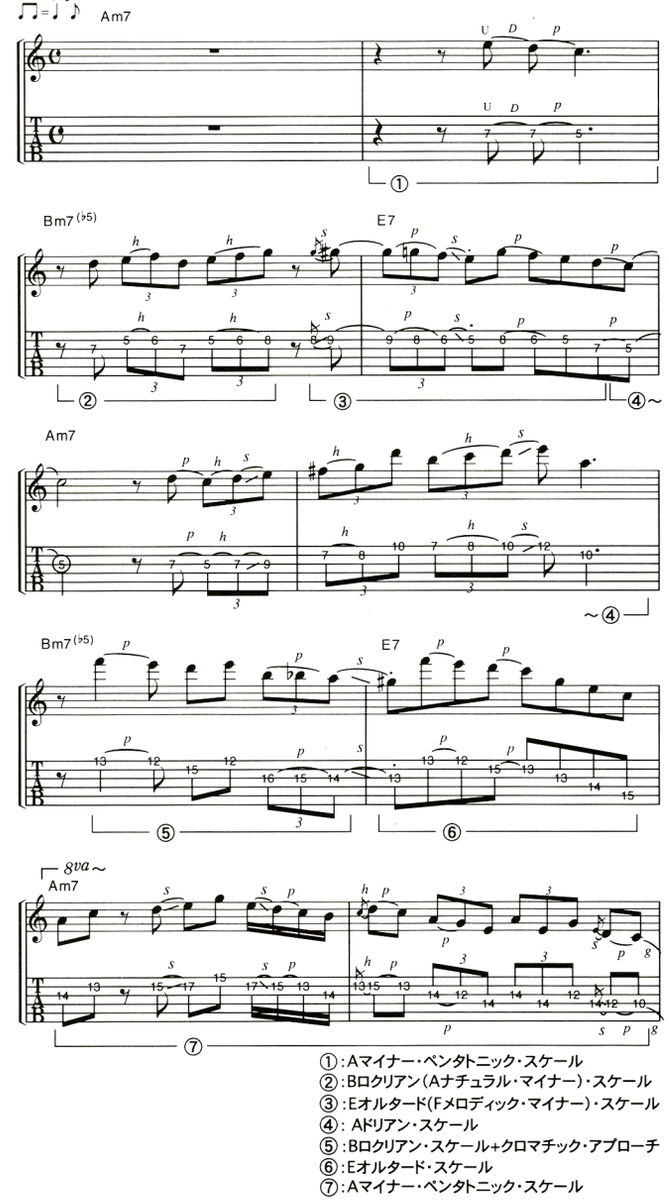








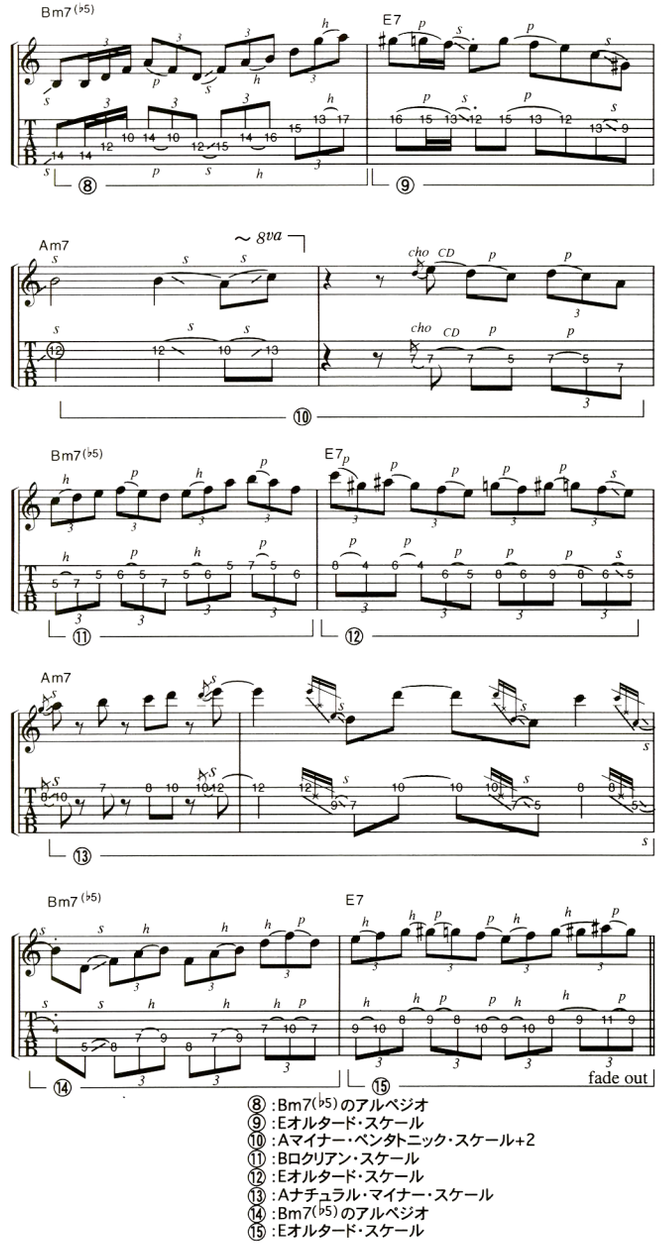




6-8:Eオルタード・スケールによるデモ演奏(その2)
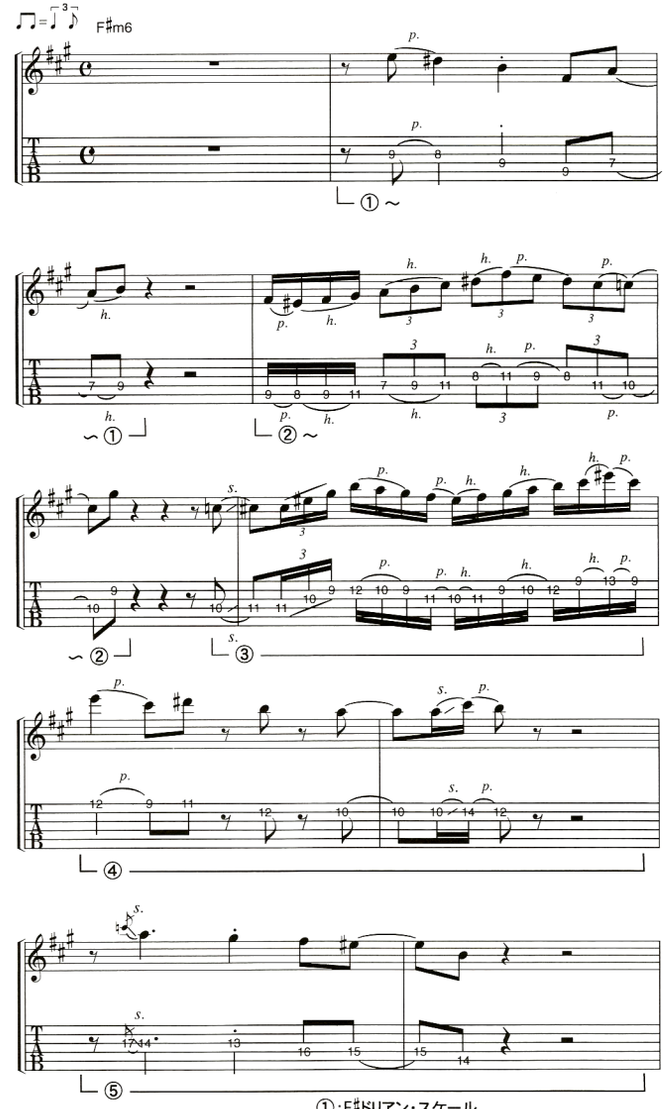


①:Aマイナー・ペンタトニック・スケール
②:Bロクリアン(Aナチュラル・マイナー)・スケール
③:Eオルタード(Fメロディック・マイナー)・スケール
④: Aドリアン・スケール
⑤:Bロクリアン・スケール+クロマチック・アプローチ
⑥:Eオルタード・スケール
⑦:Aマイナー・ペンタトニック・スケール
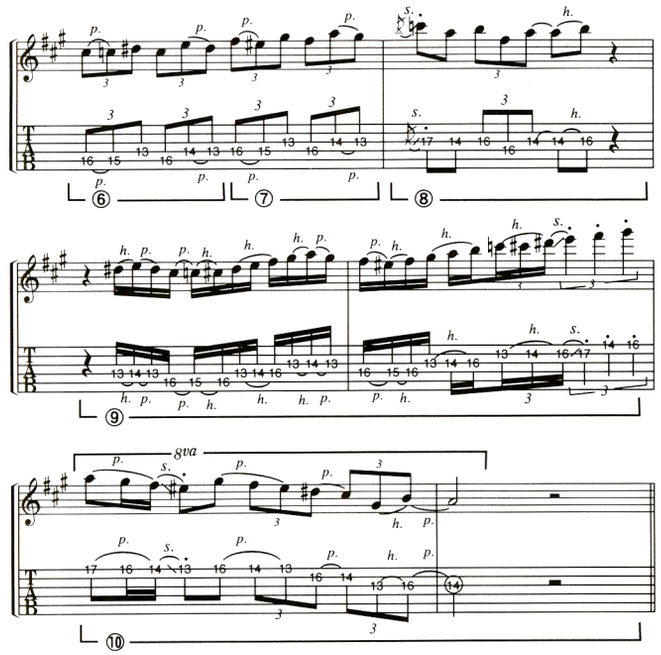


⑧ :Bm7(♭5)のアルペジオ
⑨ :Eオルタード・スケール
⑩ :Aマイナー・ペンタトニック・スケール+2
⑪ :Bロクリアン・スケール
⑫ :Eオルタード・スケール
⑬ :Aナチュラル・マイナー・スケール
⑭ :Bm7(♭5)のアルペジオ
⑮ :Eオルタード・スケール

6-9:F♯ドリアン・スケール+♭5+7によるデモ演奏



① :F♯ドリアン・スケール
② :F♯ドリアン・スケール+7
③ :F♯メロディック・マイナー・スケール+♭5
④ :F♯ドリアン・スケール
⑤ :F♯メロディック・マイナー・スケール+♭5



⑥:F♯ドリアン・スケール+♭5
⑦:F♯メロディック・マイナー・スケール
⑧:F♯マイナー・ペンタトニック+♭5
⑨:F♯ドリアン・スケール+♭5+7
⑩:F♯メロディック・マイナー・スケール

参考資料

●指板上の音名（シャープ系）

E	F	F♯	G	G♯	A	A♯	B	C	C♯	D	D♯	E
B	C	C♯	D	D♯	E	F	F♯	G	G♯	A	A♯	B
G	G♯	A	A♯	B	C	C♯	D	D♯	E	F	F♯	G
D	D♯	E	F	F♯	G	G♯	A	A♯	B	C	C♯	D
A	A♯	B	C	C♯	D	D♯	E	F	F♯	G	G♯	A
E	F	F♯	G	G♯	A	A♯	B	C	C♯	D	D♯	E

3f 5f 7f 9f 12f

●指板上の音名（フラット系）

E	F	G♭	G	A♭	A	B♭	B	C	D♭	D	E♭	E
B	C	D♭	D	E♭	E	F	G♭	G	A♭	A	B♭	B
G	A♭	A	B♭	B	C	D♭	D	E♭	E	F	G♭	G
D	E♭	E	F	G♭	G	A♭	A	B♭	B	C	D♭	D
A	B♭	B	C	D♭	D	E♭	E	F	G♭	G	A♭	A
E	F	G♭	G	A♭	A	B♭	B	C	D♭	D	E♭	E

3f 5f 7f 9f 12f

●C音からの音程（フラット系）

3	4	♭5	5	♭6	6	♭7	7	1	♭2	2	♭3	3
7	1	♭2	2	♭3	3	4	♭5	5	♭6	6	♭7	7
5	♭6	6	♭7	7	1	♭2	2	♭3	3	4	♭5	5
2	♭3	3	4	♭5	5	♭6	6	♭7	7	1	♭2	2
6	♭7	7	1	♭2	2	♭3	3	4	♭5	5	♭6	6
3	4	♭5	5	♭6	6	♭7	7	1	♭2	2	♭3	3

3f 5f 7f 9f 12f

●C音からの音程（シャープ＆フラット）

3	4	♯4	5	♯5	6	♭7	7	1	♭2	2	♯2	3
7	1	♭2	2	♯2	3	4	♯4	5	♯5	6	♭7	7
5	♯5	6	♭7	7	1	♭2	2	♯2	3	4	♯4	5
2	♯2	3	4	♯4	5	♯5	6	♭7	7	1	♭2	2
6	♭7	7	1	♭2	2	♯2	3	4	♯4	5	♯5	6
3	4	♯4	5	♯5	6	♭7	7	1	♭2	2	♯2	3

3f 5f 7f 9f 12f

●A音からの音程（フラット系）

5	♭6	6	♭7	7	1	♭2	2	♭3	3	4	♭5	5
2	♭3	3	4	♭5	5	♭6	6	♭7	7	1	♭2	2
♭7	7	1	♭2	2	♭3	3	4	♭5	5	♭6	6	♭7
4	♭5	5	♭6	6	♭7	7	1	♭2	2	♭3	3	4
1	♭2	2	♭3	3	4	♭5	5	♭6	6	♭7	7	1
5	♭6	6	♭7	7	1	♭2	2	♭3	3	4	♭5	5

3f 5f 7f 9f 12f

●A音からの音程（シャープ＆フラット）

5	♯5	6	♭7	7	1	♭2	2	♯2	3	4	♯4	5
2	♯2	3	4	♯4	5	♯5	6	♭7	7	1	♭2	2
♭7	7	1	♭2	2	♯2	3	4	♯4	5	♯5	6	♭7
4	♯4	5	♯5	6	♭7	7	1	♭2	2	♯2	3	4
1	♭2	2	♯2	3	4	♯4	5	♯5	6	♭7	7	1
5	♯5	6	♭7	7	1	♭2	2	♯2	3	4	♯4	5

3f 5f 7f 9f 12f

参考資料

●数字による表記一覧

Vol.1で紹介したスケール	メジャー・スケール	1		2		3	4		5		6		7
	ナチュラル・マイナー・スケール	1		2	♭3		4		5	♭6		♭7	
	マイナー・ペンタトニック・スケール（ブルーノート・ペンタトニック・スケール）	1			♭3		4		5			♭7	
	メジャー・ペンタトニック・スケール	1		2		3			5		6		
	ブルース・スケール	1		2	♭3	3	4	♭5	5		6	♭7	
	ハーモニック・マイナー・スケール	1		2	♭3		4		5	♭6			7
	ハーモニック・マイナーP5⬇	1	♭2			3	4		5	♭6		♭7	
Vol.2で紹介したスケール	ドリアン・スケール	1		2	♭3		4		5		6	♭7	
	ミクソリディアン・スケール	1		2		3	4		5		6	♭7	
	リディアン・スケール	1		2		3		♯4	5		6		7
	ホールトーン・スケール	1		2		3		♯4 (♭5)		♯5 (♭6)		♭7	
	コンビネーション・オブ・ディミニッシュ・スケール	1	♭2		♭3 (♯2)	3		♯4 (♭5)	5		6	♭7	
	メロディック・マイナー・スケール	1		2	♭3		4		5		6		7
	リディアン♭7・スケール	1		2		3		♯4	5		6	♭7	
	オルタード・スケール	1	♭2		♭3 (♯2)	3		♯4 (♭5)		♯5 (♭6)		♭7	

●単音程と複音程（テンション）の関係

単音程（シャープ系）	1	(♯1)	2	♯2	3	4	♯4	5	♯5	6	(♯6)	7
単音程（フラット系）	1	♭2	2	♭3	3	4	♭5	5	♭6	6	♭7	7
複音程（テンション）	—	♭9	9	♯9	—	11	♯11	—	♭13	13	—	—

堀沢俊樹インタビュー

聞き手：中島康晴

Vol.1の解説書に続き、堀沢俊樹氏のインタビューの後半をお届けしよう。Vol.2で扱った各種のスケールに対する彼自身の捉え方や攻略法が詳しく語られているので、じっくりと読んでみてほしい。ビデオで説明している事柄や、各デモ演奏の“意味”が、より明確に見えてくるはずだ。

●このVol.2はドリアン、ミクソリディアン、リディアンの3つが中心ですが、このモード系のスケールというのは、スケールを学んでいく上で誰もが一度は挫折するポイントというか、とにかく教則本を読んでも最初はなかなか理解できないというか…。

○そうですね。ビデオの中でも言ってますけど、チャーチ・モードをずらっと並べて順番に弾いても、だからどうした？ということになりがちですよね。

●その点、今回の“キーがCの時のコードCでCリディアンを使う”というようなやり方は、これらのスケールの雰囲気が掴めなかった人にとって、ひとつの突破口になるのではないかと思いました。堀沢さんは、こういうやり方をどこで覚えたんですか？

○もともとドリアンとナチュラル・マイナーを独立して覚えていたから、あとはその応用で。ただ何か新しいスケールを覚えようという事じゃなくて、例えばドリアンならドリアンの響きを覚えて、指板で音を探して、最後に名前を覚えたという、その順番が良かったのかもしれないし。「ソー・ホワット」（マイルス・デイヴィス）で、コード・チェンジごとにドリアンをずらしていくようなアプローチを覚えたのも大きかったと思いますね。

●なるほど。で、ドリアンは最初レッド・ツェッペリンの曲で知ったということでしたが（Vol.1の解説書のインタビュー参照）、リディアンに関してはどうでしたか？

○やたらとリディアンを使うようになったのは、やっぱりスティーヴ・ヴァイがキッカケですね。ジョー・サトリアーニは、リディアンを弾いても、わりと自然に流れるんですよ。その点、ヴァイはエグイところをついてくるから、印象に残りやすいんでしょうね。ちなみにビデオ冒頭のデモ演奏の“Eリディアン・モード”はスティーヴ・ヴァイ風、PART3の3-3はジョー・サトリアーニ風、3-4はフランク・ザッパ風と、私が選ぶ3大リディアン・ギタリストを参考にさせていただきました。特にジョーサト風は訴えられても文句は言えない（笑）。

●ミクソリディアンは？

○ミクソリディアンなんかはブルース系のフレーズに含まれていますから、特にいつ覚えたという意識はないんですけど、ミクソリディアンでひねくれたフレーズを弾くようになったのは、フランク・ザッパの悪影響だと思います（笑）。デモ演でもやってますけど、リディアン・モードに、全音上のミクソリディアンを当てはめていくのもザッパの影響で。ま、本人がそんな事を考えていたかどうか知りませんけど（笑）、例えばCリディアンにDミクソリディアンを想定して、D7中心にフレージングすると、D7のコード・トーンがCに対してはテンションだらけになって、リディアンのあの“浮いた感じ”が強調されるんですね。で、バッキングをCとD on Cの2コードにするとリディアン風味が強調されるし、C on DとDにするとミクソリディアン・モードに聞こえます。リディアン・モードの2コー

ド進行は、ザッパからヴァイに受け継がれていますね。

●ではホールトーンは、どんなギタリストが使っていたのが印象的でしたか？

○これは100％フランク・ザッパですね。バンドでザッパの曲をコピーした時に、ソロは9割アドリブだったんですけど、ホールトーンを機械的にコロがすフレーズだけは、そのままコピーしていて、それがキッカケになりました。で、何回かやっているうちに、どんどん勝手なフレーズに変形していったと。その曲は、5分間くらいソロ弾いてたからなんでもアリでしたけど、普通はあんまり使い途ないでしょう（笑）。

●コンディミはどうやって身につけましたか？

○まず指板全体のダイアグラムをじっくり眺めて、まったくデタラメに弾く、というところから始めました。そのうち、なんかこれはブルース・スケールと共通する部分があるなとか、その辺から徐々にフレーズらしいものが出てくるようになったと。まぁ今でもフレーズになっているのかどうかわかりませんが（笑）。II-Vとかで使いたい人は、フラット・ナインスのアルペジオを意識すると、コード感が出やすいんじゃないでしょうか。私としてはパズルのようなフレーズの組み立てが好きですけど。

●メロディック・マイナーは？

○マイナー・メジャー・セブンスとかマイナー・メジャー・ナインスのアルペジオを軸にしたり…あとはやっぱりドリアンの変形として捉えていましたね。“ドリアンの♭7を半音上げる”というよりも“ドリアンに7を足したものから♭7を抜く”みたいな見方をしてたような気がします。

●リディアン♭7・スケールは、ビデオの中ではメロディック・マイナーと関連づけて説明していますが、堀沢さん自身もそうやって覚えたんですか？

○これは独立してました。

●というと？

○まず、ミクソリディアンに♭5を足しといて、そこから4を抜くと、結果的にリディアン♭7と同じ形になるんですけど、それが基本でしたね。でもメロディック・マイナーのダイアグラムに意識を切り換える時もありますよ。

●オルタードはどうですか？

○これは半音上のメロディック・マイナーを当てはめている方が多いですね。ま、オーギュメントのアルペジオとか、なんか軸を設定した方が、フレーズらしくなると思います。ただ、私の曲にオルタードを使うようなコード進行は、ほとんど出てこない（笑）。

●そうですか（笑）。ところで、オルタードやリディアン♭7、コンディミ、ハーモニック・マイナーP5↓などは“II-V進行の中のV7で使うスケールである”っていう認識がわりと一般的だと思うんですよね。単純に言うと、Dm7-G7-C△7という進行のG7でGオルタードなどを使うと、なんか知らんけどジャズっぽくなるぞ、とか（笑）。…でも今回のビデオのデモ演奏では、それらのスケールをほとんどトニック・コード1発に乗せて弾いてますよね。

○ロックでII-Vっていうのもね。…ロック・ギタリストにオルタードやコンディミが必要かというと、必要でない人の方が多いでしょ？　…それでもコンディミにまで手を付けようって時は、コード感を出すとかいうよりも、手軽なアウトサイド用として使いたいんじゃないですかね。

●なるほど。でもオルタードの1発ものというのは、今回初めて聞いたかもしれません。

○実際、誰もあまりやらないでしょう。私もやりませんよ（笑）。

●でもこのビデオを見た人が、今後こういう使い方をするかもしれませんね。

○どうでしょう（笑）。

●ところで堀沢さんは、いろいろなスケールをドリアンを基準に考えているようですね。なぜですか？

○指板上にスケール音が整然と並んでるからですかね。半分冗談ですけど。

●あぁ、でも言われてみればもっともですね。

○アラン・ホールズワースも、“ナチュラル・マイナーはドリアンの6を半音下げたもの”みたいな捉え方をしているみたいですね。私の場合、ホールズワースとは100段階レベルが違いますけど（笑）、ナチュラル・マイナーをドリアンの変形として捉えているというか。ナチュラル・マイナーの♭6は、かなり強烈な響きに聞こえるんですよね。

●ドリアンの方が自然な響きだと？

○そんな感じです。

●ドリアン主体で考えることに、他にも何かメリットはあるんですか？

○平行調の関係で、わりとすんなりリディアンにも行きやすいと思いますよ。

●そういうものですか。

○たぶん（笑）。またミクソリディアンはドリアンの変形とも、応用とも考えられる。ドリアンの♭3を半音上げればミクソリディアンになるし、例えばDドリアン＝Gミクソリディアンという捉え方もできる。まぁそんな事言い出すと、Cメジャー・スケール＝Gミクソリディアンでもなんでもいいんですけど、いくらでもアドリブが続くっていうようなスケールをひとつ持っていると、変形も応用も楽になると思います。

●ドリアンを理解するとリディアン、ミクソリディアンの理解も早まるわけですね。

○たぶん（笑）。例えば6弦開放のEを鳴らしながらC#ドリアンを弾いていると、だんだんリディアンの感じがわかってくる。ま、それだけじゃなくて、そこにE△7とかE△7（#11）のコード・フォームをだぶらせながら弾いていくと、さらにリディアンらしくなってきます。とにかく響きを覚えない限り、スケールを知っていてもアドリブには結び付かないと思いますよ。私の場合は、E△7のコード・トーンを意識しておいて、いかにそれを避けるかというのがポリシーですけど（笑）。…同じように開放のEを鳴らしてBドリアンを弾くと、Eミクソリディアンになる。そこにE7やE9をだぶらせていくと、ミクソリディアンの響きが聞こえてくると。5弦ルートのミクソリディアンは同フレットの6弦ルートのドリアンと同一、とか、全音下のリディアンと同一とか、この3つはパックで覚えてしまうといいですね。

●なるほど。では話題を変えて、このVol.2のエンディングで演奏している曲「AUNT SUSAN」についてひとことコメントを下さい。

○元々はザ・サージェリーのライブで2、3回やった曲なんですが、ごく一部にしか受けなくて、メンバーにさえ受けなかった（笑）。

●そうだったんですか（笑）。

○そう。本人も、なんか中途半端な気がしていて、テーマというかAメロの8小節だけ残して、あとは全部とっかえようとしてたんです。そうこうしてるうちに、ビデオの制作が始まって、しかも当初は1本で出す予定が、途中で2巻同時発売に変更されて（笑）。

●失礼しました。

○そこで2本目のエンディング用に、急遽アイディアをドタバタっとまとめたという感じです。

●さて、今回のビデオには、“このスケールはこのコードに合う”といった内容の話は盛り込まなかったわけですが、これに関して、ビデオを見てくれた人に少し説明をお願いします。

○ひとまず安全な見方を言えば、そのコードが、使おうとするスケールのスケール音だけで成り立っているコードであれば問題ない、という前提があります。ただこれには多々例外があって、例えばオルタード・スケールはセブンス・コードで使えるわけですけど、オルタード・スケールには5の音はない、とか、ブルーノート・ペンタトニック・スケールなんかもセブンス・コードで使われますけど、セブンス・コードに♭3は入っていない、とかね。…ま、デモ演で使っているコードも参考になると思います。まぁ合うか合わないかは、自分の耳で判断するのがベストでしょう。デモ演にあるからといって、セブンス・コードのたびにホールトーンを弾いていると、友達減りますよ（笑）。

●堀沢さん自身は、スケール理論を元にして曲作りをするようなことはありますか？

○モードでコードを組み立てていく、というようなことはあっても、それはべつに理論うんぬんという問題でもないと思いますね。例えば3コードのブルースをやる時に、“ここでセブンス・コードにナインスのテンションを入れてみよう”と思ったとしても、それは理論を元に組み立てたって感じはしないでしょ？　たしかに大まかなラインというか、こういう色でソロを弾きたいという前提がある時は、それに合った土台で埋めていくということはあるし、結果的にリディアン・モードの中でボイシングした、ということになるのかもしれないですけど。特に理論をふまえて曲を作るってことはないですね。あったとしても、それは遊びの世界です。でも「AUNT SUSAN」は、全部作為的に組み立ててます（笑）。

●ロック・ギタリストにスケールの知識は必要なのか、という疑問を持つ人はいつの時代にもいるようですが、そういう問いに対して、堀沢さんならどう答えますか？

○どちらでも（笑）。知識は、あってもいいし、なくてもいい。…絶対音感があって、指板のどこをさわればどの音が出てくるかがはっきりとわかっていて、頭の中でフレーズが組み立てられる人には、必要ないでしょうね。で、音感に自信がなくて、指板のどこを押さえたらどの音が鳴るのかもあやふやで、頭の中でおぼろげにしかフレーズが鳴らない人の場合は、覚えておいた方が便利です。

●堀沢さん自身はどうなんですか？

○覚えた方が便利でしたね。その方が楽ですよ。例えば、リディアン・モードの曲を聞いて、同じ様な雰囲気にしたかったとして、リディアン・スケールを知っていれば、とりあえず似たような感じにはできる。でも、スケールは知らない、絶対音感もない、指板のどこにどの音があるのかもわからない、じゃあ、どうにもならないでしょ？　極端な話、1個ずつ合う音を探していくとか、全部コピーしてからどの音を使っているかを覚えるとか、そういう地道な作業が必要になってくる。スケールを知っていれば、その手間が省けますからね。ついでにコピーするのも早くなりますよ。

●知ってしまった方が楽になる、と。

○そうですね。スケールの名前は知らないけど、どこを弾けばどうなるかをわかっている人は、それを人に伝達しないかぎり、名前を覚える必要はないですね。名前を知らないだけで、スケール自体は知っているということですからね。とりあえず私の場合、知って損したって事はないなぁ。一時的に、理論を気にしすぎておかしくなる人もいるかもしれませんが、長い目で見たら、やっぱり覚えた方が便利だと思いますよ。

●堀沢さんは、このビデオをどんな風に見てほしいと思っていますか？

○スケールをこういう風に考えている人もいる、というように、ひとつの例として見てほしいですね。このビデオだけですべてを勉強しようと思っても、やっぱり無理があるし…。他にしっかりした本が1冊あるとか、教えてくれる人がいるとか、そういった状況の中で見るのがいいんじゃないかと思います。ひとつの言い方だけではわからなかったものが、多少違った角度から説明された時に、それまでは無駄に溜まっていた知識同士がつながって、ようやく意味のあるものになるってこともあるでしょう？　スケールを覚えていく過程での、ひとつの材料になればいいかな。…ちょっと謙虚すぎました？（笑）

1997年7月28日

『ロック・ギタリストのためのスケールの覚え方・使い方事典Vol.1』
内容

●オープニング・デモンストレーション
「COME DOWN」by Toshiki Horisawa
●PART 1　基本的なスケール（メジャー・スケールとナチュラル・マイナー・スケール）
1-1:Cメジャー・スケール
1-2:ルートについて
1-3:音程を表わす数字について
1-4:メジャー・スケールのフィンガリング・パターン
1-5:Aナチュラル・マイナー・スケール
1-6:ナチュラル・マイナー・スケールのフィンガリング・パターン
1-7:Aナチュラル・マイナー・スケールとCメジャー・スケールの関係（平行調）
1-8:CナチュラルマイナースケールとCメジャー・スケールの比較
●PART 2　マイナー・ペンタトニック・スケール
2-1:Aマイナー・ペンタトニック・スケール
2-2:マイナー・ペンタトニック・スケールのフィンガリング・パターン
2-3:マイナー・ペンタトニック・スケールのチョーキング・ポイント
2-4:マイナー・ペンタトニック・スケールをコード・フォームと関連させて覚える
2-5:Aマイナー・ペンタトニック・スケールによるデモ演奏
2-6:マイナー・ペンタトニック・スケール＋2
2-7:マイナー・ペンタトニック・スケール＋2＋♭6（ナチュラル・マイナー・スケール）
2-8:Aマイナー・ペンタトニック・スケール＋2＋♭6によるデモ演奏
●PART 3　メジャー・ペンタトニック・スケール
3-1:Cメジャー・ペンタトニック・スケール
3-2:CメジャーペンタトニックスケールとAマイナー・ペンタトニック・スケールの関係
3-3:Cメジャー・ペンタトニック・スケールによるデモ演奏（その1）
3-4:Cメジャー・ペンタトニック・スケールによるデモ演奏（その2）
●PART 4　ブルーノート・ペンタトニック・スケールとブルース・スケール
4-1:Cブルーノート・ペンタトニック・スケール
4-2:ブルーノート・ペンタトニック・スケールのクォーター・チョーキング・ポイント
4-3:Cブルーノート・ペンタトニック・スケールによるデモ演奏
4-4:ブルーノート・ペンタトニック・スケール＋♭5
4-5:Cブルーノート・ペンタトニック・スケール＋♭5によるデモ演奏
4-6:ブルーノート・ペンタトニック・スケール＋メジャー・ペンタトニック・スケール（分離型）
4-7:Cブルーノート・ペンタトニック・スケール＋Cメジャー・ペンタトニック・スケール（分離型）によるデモ演奏
4-8:ブルーノート・ペンタトニック・スケール＋メジャー・ペンタトニック・スケール（混合型）
4-9:Cブルーノート・ペンタトニック・スケール＋Cメジャー・ペンタトニック・スケール（混合型）によるデモ演奏
4-10:Cブルース・スケール
4-11:Cブルース・スケールによるデモ演奏
4-12:まとめのデモ演奏（その1）
4-13:まとめのデモ演奏（その2）
PART 5　ハーモニック・マイナー・スケールとハーモニック・マイナーP5↓
5-1:Aハーモニック・マイナー・スケール
5-2:ハーモニック・マイナー・スケールのフィンガリング・パターン
5-3:Aハーモニック・マイナー・スケールとAナチュラル・マイナー・スケールによるデモ演奏
5-4:Eハーモニック・マイナーP5↓（パーフェクト・フィフス・ピロウ）
5-5:ハーモニック・マイナーP5↓とセブンス・コードを関連づけて覚える
5-6:ハーモニック・マイナーP5↓からディミニッシュのアルペジオを抽出する
-7:Aハーモニック・マイナー・スケール（EハーモニックマイナーP5↓）によるデモ演奏
●エンディング・デモンストレーション
「M.L.F.」by Toshiki Horisawa

堀沢俊樹
プロフィール



Photo:
Mariko Miura

テクニカル・ハード・ロック・トリオ“THE SURGERY”のリーダー。
音楽ライターとして、ギター・マガジンではコピー困難な技巧派ギタリストの採譜を中心に、数多くの記事を執筆。プレイヤー誌ではギタリストを対象とした音楽理論セミナー“MUSIC PROFESSOR”を連載中。
97年現在はインストゥルメンタルのソロ・プロジェクト“ZAPPIE' S”始動に向け準備中。

THE SURGERY 2nd Album
『HOLY UMBRELLA』
●発表：1995年
●メンバー：堀沢俊樹（Guitars、Vocals、Computer Programming）、
小嶺恒夫（Bass）、森分憲親（Drums）
●お問い合わせ先：シルバー・エレファント
☎0422-22-3331



『HOLY UMBRELLA』
SILVER ELEPHANT
PROG-0153

企画制作：リットーミュージック
※ この譜例集の無断複製は法律で禁止されています。